週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1990
平成2年

5|12·19
平成10年5月12·19日合併号発行
(毎週1回発行)第2巻第18号
¥560
講談社

平成の「即位の礼」挙行!

日本人初! 秋山豊寛さんの"宇宙の9日間"
史上最低の出生率!「少子化社会」に突入
東西ドイツ、戦後45年間の"分断"から統一へ

▲平安装束に身をかため、皇居の中庭に立ち並ぶ74人の庭上参役者たち。 朝日新聞社

▼右手奥が天皇の高御座、右手前が皇后の御帳台。左端は万歳する海部首相。 共同通信社

◎表紙　日本人初の宇宙飛行士・秋山豊寛さんは、12月2日ロケットに乗りこみ、約190時間宇宙に滞在して、12月10日無事帰還した。 TBS提供

“平成”の「即位の礼」挙行！

“昭和”時とは様相を一変——「勅語」が「お言葉」に、予算はかつての三分の一 式典参加六六カ国が元首級

▲12日午後3時半、正装した天皇、皇后は、宮殿・南車寄を出て、オープンカーによるパレードに向かわれた。 共同通信社

平成二年一一月一二日、天皇の即位を内外に宣言する「即位の礼」が挙行された。平安朝さながらの式典には、世界六六カ国の元首級をはじめ、一五八の国と機関の代表が臨席。東京を舞台に“式典外交”が展開されて、経済大国の威信を示したが、一方で「式典粉砕」を叫ぶ過激派ゲリラの活動も空前の規模にのぼった。

「お言葉」は口語文 憲法の遵守を明言

平成二年一一月一二日午後一時、朱に近い「束帯黄櫨染御袍」姿で手に笏を持たれた天皇（五六）が、ゆっくりと皇居の正殿に入場され、十二単、手に檜扇を持たれた皇后（五六）が続かれた。第一二五代天皇への即位を宣命する「即位の礼」の中心行事、「即位礼正殿の儀」が始められたのである。

平安朝絵巻さながらの伝統的装束でのぞまれた天皇・皇后を、各皇族、海部俊樹首相ら三権の長など各界代表、さらにチャールズ英国皇太子夫妻、クエール米

"昭和"時とは様相を一変——
「勅語」が「お言葉」に、予算はかつての3分の1
式典参加66ヵ国が元首級

"平成"の「即位の礼」挙行！

◀11月17日には、「奉祝中央大パレード」が行われた。皇居前広場に集まる大群衆に、二重橋の上から提灯を振られる天皇、皇后。
読売新聞社

副大統領、統一ドイツのワイツゼッカー大統領ら海外一五八ヵ国と国連、ECの代表約五〇〇人を含む二二二三人が見つめていた。皇居の中庭には、赤、黒、金など色とりどりののぼりが並び、黒や緋色の平安装束や金の鎧に身をかため、朱色や紫色の剣や弓などを持った七四人の庭上参役者が控えていた。

天皇が一段高い高御座に、そして皇后が御帳台に上られると、高御座と御帳台の中から一斉に明かりがともり、お二人の姿がくっきりと浮かび上がる。

鉦の合図で起立した参列者が、太鼓の合図に合わせて敬礼。天皇は、高御座の上から即位を宣言、はっきりとした口調で「日本国憲法を遵守し、日本国および日本国民統合の象徴としてのつとめをはたすことを誓う……」との「お言葉」を述べられた。これを受け、燕尾服姿の海部首相が「平成の代の平安と天皇陛下の弥栄」を祈念する祝いの言葉、「寿詞」を読み上げた。次いで首相が「ご即位を祝して天皇陛下万歳」と発声、参列者が唱和して万歳を三唱し、これに合わせ、二一発の礼砲が撃ち鳴らされた。

「正殿の儀」そのものは、わずか三〇分で簡略に終了したのである。

「お言葉」は全文で二六〇字、昭和天皇のほぼ半分、そして史上初めて口語文が採用され、さらに日本国憲法の遵守を明言したことが注目された。

引き続き、お二人は午後三時半から「祝賀御列の儀」にのぞまれ、赤坂御所までの約五キロを英国製オープンカーでパレードし、詰めかけた約一二万人の祝福にこたえられた。この間、一二ヵ所で陸海空三自衛隊、警視庁、消防庁などの吹奏楽隊が演奏、皇居と赤坂御所では自衛隊員約九〇〇人が、着剣捧げ銃や挙手の礼を行った。即位にあたっての天皇・皇后のパレードも、史上初のことである。

さらに、夜には豊明殿で「饗宴の儀」が開かれ、各国元首、祝賀代表ら約三五〇人が招かれた。この後、「饗宴」は、四日間、七回にわたり延べ二九〇〇人を招いて続けられた。

経済大国の威信を誇示し "開かれた皇室"をアピール

「即位の礼」は、昭和三年以来、六二年ぶりのことである。だが、「昭和」と「平成」では、憲法や時代背景の相違から、予算規模や警備体制をはじめ、かなり様相を異にしていた。最大の違いは、昭和天皇が「現人神」とされていたため、「お言葉」ではなく「勅語」で、国民に訓辞・命令する形を取っていたことだ。また、「昭和」の場合は京都御所で行われ、パレードはなく、天皇・皇后が京都、名古屋、東京で馬車行列を行った。その際、天皇が馬車一三台で先頭を切り、皇后は二〇m離れ五台の馬車で続いた。沿道の民衆は、京都が六〇万人、名古屋は四〇万人、最も少ない東京で一二万人だった。

「さらに、宗教的色彩を排除するため、格別気をつかわれたのが平成の即位の礼です。特に今回の『大嘗祭』では、取りはずしできる鳥居を採用するほどの気づかいが示されました」

と、皇室ジャーナリストの河原敏明氏は言う。

▲11月22日、即位の重要祭儀とされる、「大嘗祭」の中心儀式に、祭服姿でのぞまれる天皇。
共同通信社

経費は「昭和」が圧倒的に多い。「昭和」の総予算は、警備費をのぞき一六二四万円。米価を基準に換算すれば、今日の約二二〇億円に相当する。これに対し「平成」は約六九億円だった。

警備面では「昭和」が大礼を前に共産党への「三・一五弾圧」を行い、治安維持法の最高刑を死刑に改定したうえで二万七〇〇〇人の警備体制を敷いたが、「平成」はこれを上回り、都内だけで連日三万七〇〇〇人が配備された。費用は約五四億円、警官の間隔も、「昭和」の約三分の二（約三・六メートル）にせばめられた。

一方、式典に反対する過激派ゲリラの出没も、一一月一二日だけで三六件にのぼり、同時多発ゲリラ事件としては空前の規模となった。

式典参加者は、一五八ヵ国中、六六ヵ国が元首級と、「昭和」の二八ヵ国の臨席者が、すべて駐日大・公使だったのに比べ、「格」の違いが際立っていた。

「即位の礼」の終了で、最もほっとしたのは警備の警官だった。「大喪の礼」から「即位の礼」まで、ほぼ二年間ハードな警備が続いたからである。そのうちの一人は、「失礼な話ですが、これでしばらくは警備車の中で弁当を食わないですむと思いました」と当時を振り返る。

「即位の礼」は「西側第二位」の経済大国の威信を誇示し、開かれた皇室をアピールする一大セレモニーとなった。

これに対し、各国のマスコミは当日の報道で、新天皇への期待を表明する一方で、クールな見方も紹介している。欧州では、戦争を思い起こさせる「万歳三唱」に抵抗感を感じるという論調（イギリス「デーリー・テレグラフ」紙）のほか、フランス国営テレビは「経済大国の現代性と、神秘的儀式の対比」にスポットをあてた。最も冷ややかだったのは、ドイツの公共テレビで、「経済大国の援助めあてに多数の国が使節を派遣した」と伝えたのである。

古式の再現に苦労した「即位の礼」と「大嘗祭」

「即位の礼」と、それに引き続き行われた「大嘗祭」は、皇室の伝統に即して行われるだけに、裏方の準備は相当な苦労がともなった。たとえば、高御座や御帳台は、大正天皇の「即位の礼」に使われたものを丹念に修理して使用。また、「大嘗祭」の建物は新たに作られたが、本来、屋根はすべて萱葺き、柱は櫟のはずが材料が集まらず、萱葺きは主要な建物だけ、柱も一部が落葉松で代用された。

天皇・皇后の古装束も、奈良時代の養老2年に制定された「衣服令」に準拠したもの。ところが、伝統的技法を身につけた職人も少なく、染料などの素材もなかなか手に入らなかったため、装束の準備だけでも1年近くの時間がかかっている。

天皇が着用された束帯の価格は800万円、そのほかの皇族のものは500万円、そして宮内庁職員らのもので100万円とされた。また、皇后の十二単は1300万円、女官らのもので200万円。古装束関係の総予算は、4億円だった。

読売新聞社
▲天皇、皇后は、皇居―赤坂御所間をにこやかにパレード。沿道は12万の人出で埋めつくされた。

▶一一月一二日夜の「饗宴の儀」は、チャールズ皇太子夫妻ら外国賓客が豊明殿の晩餐会に招かれた。
共同通信社

秋山豊寛さんの生き方を変えた宇宙の"九日間"

「やっぱり地球というのは、水と雲の星だ」日本人初の飛行は大成功！

▶「ミール」の船内を遊泳する秋山さん。「ソユーズ」から「ミール」に乗り移った後、3日間にわたって、宇宙酔いに悩まされていた。

TBS提供（2点とも）

平成二年一二月二日、日本人初の宇宙飛行士・秋山豊寛さんが宇宙に飛び立った。約一九〇時間飛行して地球を一二四周、無重力空間での過密スケジュールを無事にこなし、一二月一〇日、地球に帰還した。そして五年後、秋山さんはジャーナリストの職を捨て、今は大地を耕しながら生命の営みを見守り続けている。

地球一周後、宇宙から"特派員"報告の第一声

「これ本番ですか？　こちら『ソユーズTM11号』に乗っております秋山です。今、ソビエト上空を飛行中です。打ち上げ直後は、ダンプに乗って砂利道を走るような振動が体に伝わり、約八分五〇秒後、軌道に乗った瞬間、体が浮き上がりました」

世界初のジャーナリスト宇宙飛行士となったTBS（東京放送）外信部デスク・秋山豊寛さん（四八）の"特派員"報告第一声が地球に届いたのは、平成二年一二月二日、日本時間の午後六時五七分。ロケット打ち上げ後、約九〇分かけて地球を一周した時のことであった。

秋山さんとソ連のアファナシェフ船長（四二）、マナロフ機関士（三九）が乗りこんだ宇宙船「ソユーズTM11号」が打ち上げられたのは、現地時間一二月二日午後一時一三分三二秒（日本時間同日午後五時一三分三二秒）。

打ち上げが行われたのは、モスクワから東南へ二二〇〇㌔、アラル海東側の半砂漠地帯にあるカザフ共和国バイコヌール宇宙基地。長さが四九・二㍍、二段式液体燃料のロケット先端に取り付けられた「ソユーズTM11号」は、進路をやや東に変えながら上昇。八分五〇秒後に第三段ロケット切り離しに成功、最も危険な大気圏脱出をはたし、地球を約九〇分で一周する軌道に乗ったのである。

その日、基地周辺は気温一〇度と暖かく、発射台から一・五㌔離れた観測台には発射の瞬間とともに大きな拍手と歓声が沸き起こった。打ち上げを見守っていた妻・京子さん（四一）は、「本人は平静ですから、逆にこっちがしっかりしなくては」と喜びを語った。

その後「ソユーズTM11号」は四周目と五周目にロケットを噴射して高度を上げ、すでに昭和六一年二月二〇日に打ち上げられ、約四〇〇㌔上空を周回している宇宙ステーション「ミール」に接近。四日午後零時五七分一八秒（日本時間同日午後六時五七分一八秒）、みごとドッキングに成功し、秋山さんはその約九〇分後「ミール」に乗り移ったのである。

「ミール」の基幹モジュール（中心部）は全長約一三㍍、最大直径四・二㍍、重量約二〇㌧で、六人が暮らせるスペース。秋山さんは、この年八月一日、「ソユーズTM10号」で打ち上げられて「ミール」船内に滞在中の、マナコフ船長（四〇）、ストレカロフ機関士（五〇）と抱き合い喜びを分かちあった。そして、地上のテレビに映し出された秋山さんは、「日本人初！　宇宙へ」と書かれた垂れ幕を掲げ、ストレカロフ機関士からは歓迎の意を表す塩とパンを贈られた。

その後、秋山さんは「ミール」内で「久美子一～六号」と名づけた六匹のカエルの無重力実験を行い、「太ってる方が元気がよい」と報告、「やっぱり地球というのは、水と雲の星だなあっていう感じがしますね」など、窓から見える地球の様子を次々と伝えてきた。

秋山さんが宇宙九日間の旅を終え、地球に帰還したのは一二月一〇日午前九時八分（日本時間同日午後三時八分）。カ

▲酒好きでヘビースモーカー、身長169センチ、体重62キロ、1男1女の父。"普通のおじさん"が、いよいよ「ソユーズ」に乗りこむ。

▲「ソユーズ」から見た「ミール」。テレビカメラで色鮮やかに写し出された映像は、宇宙と視聴者との距離を飛躍的に縮めた。 TBS提供(2点とも)

ザフ共和国アルカリク北東、氷点下一六度の雪原に軟着陸した、黒焦げのカプセルから元気な笑顔を見せたのである。それは、世界で二四三番目、日本人としては初の快挙であった。

サラリーマン生活を捨て無農薬農業にチャレンジ

TBSが、ソ連宇宙総局と宇宙飛行への契約を正式にとりかわしたのは、平成元年三月二七日のことであった。その年九月一八日には、関連会社を含む一六二人の応募者の中から厳しい医学検査、体力テストを経て、秋山さんと菊地涼子カメラマン(二六)の二人が宇宙飛行士候補に決定した。

「まあ、一種のはずみみたいなものでした。宇宙行きの切符を手に入れようと思ったのは、その頃毎日やっている仕事よりも面白そうだったからです」

秋山さんは応募の動機をこう語る。

二人が、モスクワ郊外にあるガガーリン記念宇宙飛行士訓練センターを訪れたのは、同年一〇月二日。おのおの、2LDKの部屋を与えられ、毎日、朝七時に起床、食事後九時から夕方六時までの特訓が開始された。訓練はロシア語の授業、無重力訓練、宇宙工学やロケット構造学、天文・気象学、パラシュート降下訓練など、一年二ヵ月の間に一〇〇以上のテストをクリアしなければならなかった。

秋山さんが、宇宙飛行士に選考されたのは翌平成二年一一月二日。モスクワ郊外の宇宙飛行管制センターで開かれた、ソ連側選考会議の結果による。バックアップクルーになった菊地さんは、「地上から秋山さんを叱る役にまわろうかな」とユーモアたっぷりに語っていた。

宇宙飛行は、大成功だった。地球に舞い戻った秋山さんは、報道の第一線で活躍。五年後の平成七年暮れ、管理職の道を捨てて、五三歳で退職、福島県の滝根町で有機・無農薬農業にチャレンジする。

「『ミール』の窓から再び見ることのない美しい地球を見つめていた時、私を襲ったのは、地球について何も知らないという強烈な思いでした。生きとし生けるものすべての故郷である、地球という星をもっと知りたい。そして四七億年の地球の歴史から見れば、ほんの一瞬でしかない自分の生きる時間を少しでも長くしたいとも。農業は、地球とじかにかかわりあって、自分の命を造り出す根本的な作業です。私は、サラリーマン社会の出世競争には向いていませんでしたし」

宇宙飛行士としての貴重な体験を経た後、秋山さんは今、農業を通じて生命の営みを凝視しているのである。

▲宇宙飛行士は、風呂代わりに濡れタオルで互いの体をふき合う。リラックスした表情の秋山さん。

女たちの肖像

“極限好き”で五輪の申し子に スピードスケートの橋本聖子 世界選手権で初の銀メダル!

稲葉真弓

▲世界選手権に続きワールドカップでも栄冠獲得。 読売新聞社

橋本聖子(二五)にとって、この年二月、カナダのカルガリーで行われたスピードスケート女子世界選手権大会には、格別の思いがあったのではないだろうか。

カルガリーは、昭和六三年の冬季オリンピック開催地で、彼女には五九年のサラエボに次いで二度目の五輪。しかし、出場した五種目全部に日本新記録を出しながら、一個もメダルを取れなかった。その雪辱をはたすべく出場したこの大会は、二日間で四種目の競技を行い総合得点を競うものだが、五〇〇㍍で一位、一五〇〇㍍で二位、そのほか二種目を合わせた総合で、日本人初の銀メダルを獲得したのである。年末にはワールドカップ(松本)の一〇〇〇㍍で優勝、平成四年のアルベールビル冬季オリンピックでは、一五〇〇㍍で銅メダル獲得。日本女子選手では冬季五輪史上初のメダリストとなった。

彼女は「五輪の申し子」と言われるが、事実、その足跡はオリンピックとともにあった。東京オリンピックで沸きたっていた昭和三九年一〇月、北海道・早来町で生まれた彼女は、この娘を五輪選手にしようという父親の強い意思のもとに育てられた。「聖子」という名も、聖火にちなんだものだ。

二歳で自転車によるスパルタ教育、三歳の冬にはスケートを始め、本格的な練習は早来中学二年の時からだが、すぐに頭角を現し、三年生の時には全日本スプリントでジュニア日本一。次いで駒大苫小牧高校二年で日本選手権と全日本スプリントの二冠を制覇し、女子スピード界の女王となった。

この人の特質は、自分に対する徹底した厳しさにある。ふらふらになるまでトレーニングをし、競技中もラストスパートで苦しくなる自分が許せない。

「ゴール寸前になると、たりなかったものが見えてきて、次のスタートラインに向かうための練習のことを考える」

そんな“極限好き”の彼女が挑戦した種目は、スケートだけではなかった。大学ラグビーの一流選手並みの筋力とスタミナを武器に、自転車競技で昭和六三年夏のソウル、平成四年のバルセロナにも出場。六年のリレハンメルはスケート、八年のアトランタは自転車でと、計七回のオリンピック出場記録を作った。

アトランタで惨敗したのを機に、競技生活から引退を表明。その間、平成七年参議院選挙に当選し、現在は議員活動をしているが、次のスタートラインをどこにさだめるのか、注目されるところである。

勝者・敗者

「最後の二周は泣きながら」F1日本グランプリ決勝で鈴木亜久里、初の表彰台!

阿部珠樹

レースは、いきなりアクシデントで始まった。ドライバーズチャンピオンを争うアイルトン・セナとアラン・プロストがスタート直後の一コーナーで接触、ともにリタイアしてしまったのだ。この間わずか一〇秒。結末は誰にも予測できなくなった。この年、一〇月二一日、鈴鹿サーキットで行われたF1日本グランプリの決勝である。

一四万の大観衆が見守る中、レースはナイジェル・マンセルのリードで進んで行く。だがそのマンセルも二七周目にリタイアすると、混戦模様に一層拍車がかかった。

ローラ・ランボルギーニに乗る鈴木亜久里(三〇)は五番手を進んでいた。前の年にF1にフル参戦するようになって以来、レース中盤までこれだけのいい位置をキープするのは初めての経験である。もしかすると、ドライバーズポイントを獲得できる六位入賞があるかもしれない。

だが、鈴木はその順位に満足しなかった。マンセルがリタイアし、四位に上がった時、前を行くリカルド・パトレーゼとの差は二五秒もあった。パトレーゼにアクシデントが起こらない限り、逆転は困難な差である。しかし、鈴木は執拗に追い上げる。一周二秒ずつ差を詰め、あっという間に一五秒差まで持ちこんだ。

その後、パトレーゼがタイヤ交換に入る。この勝負どころを鈴木は見逃さなかった。際どいタイミングで前に出て、表彰台圏内に入る。パトレーゼも必死に追い上げるが、鈴木はとうとうリードを守り切った。最後の二周は泣きながらの走行だった。無理もない。日本人ドライバーとしては初めての表彰台、しかもその快挙を、地元の鈴鹿でやってのけるのだから。チェッカーが振られ、三位が確定すると、鈴木には優勝したネルソン・ピケを上回る大歓声が送られた。

「自分をセーブすることは考えなかった。どれだけ攻めていけるかだけを考えた」

レース後、鈴木は誇らしげにそう語った。この日は中島悟も六位に入賞し、まさに“日本デー”と言える鈴鹿だった。

▶鈴木は三位入賞、一位はネルソン・ピケ、二位はロベルト・モレノ。 毎日新聞社

1月

共同通信社

毎日新聞社

▶**勝新太郎（58）、ハワイで逮捕（1月16日）**ホノルルでパンツの中に隠していたマリファナ、コカインを税関に押収された。写真は24日、身柄を拘束された米移民局前で日本の報道陣にもみくちゃにされる勝。後に罰金、国外退去処分に。

ロイター／サンテレフォト

◀**「金満ニッポン」の福袋（1月3日）**名画あさり、米国での土地投資など、経済絶頂期の象徴的な出来事。仙台のデパートが1億9900万円の福袋を出した。中味は純金観音像、5カラットのダイヤ、ベンツ、輪島塗の3億7000万円分だった。

共同通信社

長崎新聞社

◀**本島等長崎市長、銃撃され重傷（1月18日）**昭和63年の市議会で「天皇に戦争責任はある」との発言に、右翼団体が反発していた。写真は市役所前での銃撃直後、公用車を降りる市長（67）。犯人は、その場で逮捕された。

▲**上野・本牧亭の灯消える（1月10日）**東京で唯一の畳敷きの寄席、日本でただ1軒の講談定席だったが、客離れと地価高騰には勝てなかった。写真は、神田山陽会長ら、協会所属の講釈師34人による感謝の挨拶と手締め。

◀**新幹線工事で御徒町の道路陥没（1月22日）**東京・台東区の春日通りに突然大穴が生じ、車両4台が転落、通行人10人が負傷した。トンネル掘削時に注入する凝固剤の不足が原因だった。

▶**エリツィン、東証を見学（1月16日）**翌年、ロシア大統領に選ばれるソ連急進改革派の旗手が東京・兜町を訪れ、株取引の立会場などに鋭い視線。ソ連首脳はすでに経済建て直しのため、市場原理導入を決意していた。

毎日新聞社

平成2年1月

1（月）●郵政省、貯金の預け入れ限度を五〇〇万円から七〇〇万円に引き上げ。預け替えがねらい。
2（火）●前年のソ連出国ユダヤ人は七万人と在米団体。
3（水）●パナマのノリエガ将軍が米軍に投降（4日麻薬容疑で移送された米で初公判）。
4（木）●東京・中野区、文書の年号の原則を西暦に変更。
5（金）●森山真弓官房長官、相撲協会の「伝統を守る」との拒否回答に土俵上の表彰を断念。
6（土）●衛星放送受信契約数が一二〇万件とNHK。
7（日）●ピサの斜塔が崩壊の危険で初の公開中止。
●フジテレビ、「ちびまる子ちゃん」放映開始（10月アニメでは最高視聴率三九・九％）。
8（月）●公共職業安定所、愛称に「ハローワーク」採用。
9（火）●東京市場で株・債券・円相場「トリプル安」。
10（水）●講談定席、東京・上野の「本牧亭」が閉場。
●一九八九年五月実施の北京の戒厳令解除。
11（木）●国土庁、土地投機あおると地価速報制を廃止。
12（金）●礼宮と川嶋紀子さんの「納采の儀」が川嶋家で行われ、婚約が正式にととのう。
13（土）●初の大学入試センター試験を実施。
●マレーシア残留の元軍属の日本人二人が帰国。
14（日）●ソ連の急進改革派指導者、エリツィンが来日。
15（月）●ワレサ連帯委員長、訪問中の海部首相に「ポーランド経済を第二の日本にしたい」と述べる。
16（火）●勝新太郎、大麻など所持容疑でハワイで逮捕。
17（水）●長寿日本一の藤沢ミつさん死亡、一一三歳。
18（木）●本島等長崎市長が右翼団体員に銃撃され重傷。
19（金）●政府、天皇の即位の礼を一一月一二日と決定。
20（土）●ソ連、紛争中のアゼルバイジャンに武力進攻。
21（日）●外国人留学生の間で日本企業への就職希望が増加。特に女性に人気と法務省が発表。
22（月）●中小企業の四五％が「人手不足深刻」と全信協。
23（火）●日本のエイズ感染者は一一六四人と厚生省。
24（水）●宇宙科学研、日本初の月衛星「ひてん」打ち上げ（搭載の衛星「はごろも」月の周回に成功）。
25（木）●パキスタンのブット首相が女児出産。現職首相の出産は世界で初めて。
26（金）●米・ホノルル税関が日本ヤクザ特捜班を設置。
27（土）●東西本願寺の僧侶ら「仏教者ネットワーク」結成、大嘗祭への公費支出反対運動を開始。
28（日）●都が伝統工芸の内弟子に育英資金、と新聞に。
29（月）●プロ野球セリーグが延長を一八回までと決定。
30（火）●英国で胎児の心臓弁手術に世界で初めて成功。
31（水）●日本生命、三菱地所抜き賃貸ビルで日本一に。

ニュース・ファイル 1990

フォト＋日録で再現する365日

「名画あさり」などバブル経済に酔う日本の金満ぶりに世界が眉をひそめ、湾岸戦争が起きると、「カネは出すが人は出さない」日本への非難は最高潮に達した。一方、ソ連の社会主義放棄、東西ドイツの統一……、激動はとどまるところを知らなかった。

◀**大阪の大和川河川敷に廃車の山（2月）**15年間ほどで溜まった放置車が約360台。近畿地方建設局がついに行政代執行に乗り出し撤去した。こうした大型の廃棄物があふれるようになり、各地で問題になった。

読売新聞社

読売新聞社

▲若貴、兄弟関取(2月26日)大相撲春場所の番付発表で、藤島部屋の若花田(19、中央)が新十両に昇進、これで2場所先行の弟・貴花田(18、右)に追いついた。写真左は父・藤島親方(40、元大関貴ノ花)。

▲また象牙の密輸入(2月23日)神戸水上署が中国人ら6人組を逮捕、時価2億4000万円分の印材を押収した。象牙はワシントン条約で国際取引が禁じられているが、密輸業者が後を絶たなかった。

読売新聞社

▼雪の札幌で暴力団ビルに「装甲車」突入(2月4日)コンクリート5階建てビルが、1階から3階までめちゃめちゃ。中には十数人がいたが怪我人は出なかった。犯人は山口組系の組員。1月の総長射殺の仕返しだった。

朝日新聞社

ロイター／サンテレフォト

▲南ア政府、マンデラ(72)釈放(2月11日)反アパルトヘイト運動の象徴的存在が、28年ぶりに自由の身。デ・クラーク大統領の対話政策の一環だった。右はウィニー夫人。

▶タイソン、まさかのKO負け(2月11日)5万人の大観衆を集めた東京ドームの世界ヘビー級タイトル戦の10回、ダグラス(29)の猛攻を受けてマットに沈んだ。無敵タイソン(23)の不敗神話の終焉だった。

▶在日韓国人政治犯・徐勝さん、19年ぶり釈放(2月28日)ソウル大在学中の1971年に、「学園スパイ事件」に連座して検挙・投獄されていた。写真は弟妹に囲まれる徐さん(44)。収監中、自殺をはかった際の火傷が痛々しい。

共同通信社

共同通信社

平成2年2月

1(木)●丸紅、欧州で在住日本人約一〇万人向けに日本語テレビ局設置(3月1日放映開始)。

2(金)●松下電器、ファジー制御の全自動洗濯機発売。

3(土)●北朝鮮が原発建設に着手と韓国紙報道。

4(日)●前年の対外不動産投資は一〇〇億ドルを超え、大半が米の土地・建物購入と大蔵省。

5(月)●都銀と地方銀行の全国オンライン提携開始。

6(火)●豊田商事事件(昭和57年)の被害者救済のための資産回収訴訟が終了(被害額の一割)。

7(水)●大橋秀行、世界ストロー級王者に(日本人の挑戦連続失敗は二一でストップ)。

8(木)●児玉龍彦ら東大病院グループ、動脈硬化を起こす遺伝子を発見と発表。

9(金)●運輸省、軽自動車の規格を緩和、拡大する。

10(土)●橋本聖子、スピードスケート世界選手権五〇〇メートルで優勝(11日、日本人初の総合二位)。

11(日)●タイソン、世界ヘビー級タイトル戦KO負け。
●ゲームソフト「ドラゴンクエストⅣ」発売。
●南ア政府、黒人解放指導者のN・マンデラ釈放。

12(月)●長野市、一九九八年冬季五輪開催地に立候補。

13(火)●気象協会、初の「スギ花粉予報」を開始。
●豪のカジノで日本人が二八億円稼ぐと新聞に。

14(水)●「ローリング・ストーンズ」、日本初公演。
●企業メセナ協議会発足。理事長・福原義春。
●英のハロッズ百貨店、毛皮の販売中止を発表。

15(木)●英国が日本の地方銀行の英支店開設を解禁。

16(金)●東大医科研倫理審査委員会、脳死者からの肝臓移植手術を承認(国内で初めて)。

17(土)●日本産科婦人科学会、昭和五八年以降六年間で、約二〇〇〇人の体外受精児誕生と発表。

18(日)●モンゴルで初めての野党・民主党結成。

19(月)●ベルリンの壁の撤去作業が始まる。
●籤つきはがき「さくらめーる」発売。

20(火)●縄文晩期(前二世紀)に関東地方でも稲作が行われていた、と国立歴史民俗博物館が発表。

21(水)●神戸新交通の六甲アイランド線開通。

22(木)●JR東日本、「静かな車内放送」続行を決める。

23(金)●国連総会、「麻薬乱用根絶の一〇年」を宣言。

24(土)●田中角栄の後援団体・越山会が正式解散。

25(日)●松竹歌劇団(SKD)、東京で最終公演終える。

26(月)●一個一万円の美肌クリームが大人気と新聞に。

27(火)●神奈川県が湘南海岸に二〇万本の植樹を実施。

28(水)●スパイ容疑で韓国に逮捕されていた在日韓国人の徐勝さんが一九年ぶりに釈放される。

AP／WWP

▶黒澤明にアカデミー「特別名誉賞」(3月26日)黒澤の業績が「世界映画の巨人」と賞賛された。写真はスピルバーグ(右)、ルーカス(左)両監督からオスカーを受ける黒澤。80歳。

◀ゴルバチョフ、最初で最後のソ連大統領に(3月15日)経済不振、民族問題などの難問を抱え、必要なのは米・仏大統領並みの強権とみられた。しかし翌年に連邦は解体、失脚した。

▶国鉄清算事業団1582人に解雇通告(3月20日)国鉄分割・民営化以来行ってきた再就職斡旋業務が、3月31日で終了するため。約9割が国労の組合員。写真は東京・新橋の事業団で、通知書の受領を拒否する職員。

▶桑田真澄、お詫び(3月30日)元運動具メーカー社員が著書で指摘した、「野球賭博常習者」からの金品授受を、一転、肯定。巨人は謹慎1ヵ月、罰金1000万円を科したが、登板日漏洩など野球賭博には無関係とした。

▼横浜国際女子駅伝で日本初優勝(2月25日)8回目で達成。2時間16分31秒。左から寺崎、朝比奈、藤原、松野、真木、寺沢。2位ソ連、3位中国だった。

ロイター・サン／共同通信社

朝日新聞社

共同通信社

▼夕張炭鉱消える(3月27日)国内炭鉱撤退政策の中、北海道の三菱石炭鉱業南大夕張鉱業所が閉山。高品質を誇った優良鉱もついに閉じた。写真は最後の朝礼。

共同通信社

読売新聞社

平成2年3月

1(木)●国語審議会、外来語表記で原音と慣用を重視した「ヴァ、クァ」など三三例の追認案公表。

2(金)●電気通信審議会、NTT分割案の最終答申(30日政府、分割の五年間見送りを決定)。

3(土)●日本などの国際犬ぞり隊、初の南極大陸横断。

4(日)●関西でゴルフ会員権の下落始まる、と新聞に。

5(月)●福岡市教委、「先割れスプーン」全廃を決める。

6(火)●三菱グループ四社、欧州市場強化のため西独最大のベンツグループと業務提携を発表。

7(水)●米と西独、西独からの化学兵器撤去に合意。

8(木)●千葉県、新設ゴルフ場で農薬使用を全面禁止。

9(金)●二〇代女性のアルコール依存症急増と新聞に。
●神戸市、神戸祭のミスコンテストを廃止。

10(土)●JR京葉線(東京—蘇我間)が全面開通。

11(日)●リトアニア共和国がソ連からの独立を宣言。

12(月)●警視庁の桜井るゑ子警部、初の女性警視に。

13(火)●東京地裁、日本坂トンネル事故(昭和54年)で、道路公団に一億九〇〇〇万円の賠償命令。

14(水)●法隆寺、釈迦三尊像台座から墨書・墨画を発見、木に書かれたものでは国内最古と発表。

15(木)●白神山地を通る青森—秋田林道の建設中止。
●ソ連の初代大統領にゴルバチョフが就任。

16(金)●北極でオゾンホール確認と米航空宇宙局発表。

17(土)●横綱千代の富士、史上初の一〇〇〇勝達成。

18(日)●尼崎市の長崎屋で火災。小学生ら一五人死亡。

19(月)●NTT株が一一八万円で、売り出し価格割れ。

20(火)●農水省、安全性の苦情や不安が絶えないミネラルウォーターに八項目の品質表示指針作成。

21(水)●南アからアフリカ最後の植民地ナミビア独立。

22(木)●ソ連の宇宙船「ミール」で日本鶉のひな誕生。

23(金)●歌舞伎の市村羽左衛門ほか二人が人間国宝に。

24(土)●新婚旅行の九六%は海外、と交通公社調べ。

25(日)●ニューヨークのディスコで火災。八七人死亡。

26(月)●黒澤明監督、米アカデミー賞特別名誉賞受賞。

27(火)●大蔵省、金融機関へ土地融資の総量規制通達。

28(水)●脳死臨調が初会合。会長に永井道雄元文相。

29(木)●原子力船「むつ」、むつ市で一六年ぶり洋上出力試験開始(10月5日出力一〇〇%達成)。

30(金)●東京地裁、前年の連続幼女誘拐殺人事件の初公判。宮崎勤被告は殺意を否認。
●日本テレビ「11PM」を最終放映。

31(土)●国際花と緑の博覧会が大阪・鶴見緑地で開幕。
●水銀と汚泥を浚渫と埋め立てで封じこめる水俣湾公害防止対策事業が一六年目で完了。

▲東京税関に外国人が殺到(5月) 6月1日から入管法が強化されることを「一斉逮捕」と誤認、10万人を超えると言われる不法在留者が、逮捕よりは強制退去命令をと次々に訪れた。

読売新聞社

▶ハイジャック犯を中国へ引き渡し(4月28日)張振海は、前年12月に中国機を乗っ取り、福岡空港で拘束された。亡命を希望していたが、20日、東京高裁は政治犯扱いを否定。送還された。

共同通信社

◀「花の万博」で墜落・宙吊り(4月2日)大阪で前日開幕した「国際花と緑の博覧会」の水上交通、ウォーターライドが水路からはずれ、23人が重軽傷。博覧会は9月30日閉幕、入場者2000万人を超える人気となった。

共同通信社

▼九十九里沖でモーターボート転覆(4月22日)千葉県片貝漁港近くで、強い横波を受けた。乗員11人のうち子ども4人が死亡、二人が行方不明。当時、海は大荒れ。おとなの無謀が悲劇を招いた。

毎日新聞社

▶日本人初の宇宙飛行士決まる(4月24日)宇宙開発事業団が、前北大助教授・毛利衛(42)を選考。支援は向井千秋(37)と土井隆雄(35)。毛利は「はやる気持ちをおさえきれない」と大喜び。

毎日新聞社

◀長良川を守れ(5月26日)三重県長島町と桑名市間に着工された、可動式河口堰に反対する環境保護団体が、建設省周辺をデモ。作家の立松和平(左端)、椎名誠(右端)らも参加した。

共同通信社

平成2年4月

1(日)●太陽神戸三井銀行(現・さくら銀行)が発足。
●日航、国際線でスチュワーデスの和服廃止。
2(月)●真宗大谷派、全戦没者追弔法会で「戦争に協力した」と教団の戦争責任を初めて自己批判。
3(火)●人工衛星日米協議、日本の大幅譲歩で決着。
4(水)●パチンコのプリペイドカードが都内に初登場。
5(木)●日本興業銀行、電算用紙を再生紙に転換。
6(金)●大英博物館に常設の「日本ギャラリー」開館。
7(土)●厚生省、病院食改善のため新規準を作成。
8(日)●国外強制退去処分を受けた外国人は二万二六二六人で、前年比二七%の大幅増、と法務省。
9(月)●世界麻薬問題閣僚級会議、ロンドンで開催。
10(火)●在韓被爆者治療に二七億円出資と日韓が合意。
11(水)●全国二九団体が集まり「ぼけ予防協会」設立。
●ラグビー日本代表、韓国破りW杯出場を決定。
12(木)●韓国政府、大韓航空機事件(昭和62年)の死刑囚・金賢姫に特赦。死刑執行を免除。
13(金)●県民一人当たり所得、一位東京は三四四万円、最下位沖縄は一六九万円で格差拡大と経企庁。
14(土)●三菱銀行オンラインシステムが全国で停止。
15(日)●文部省、留学生一〇万人受け入れ計画に着手。
16(月)●米アトランタに初の日本人幼稚園開設。
17(火)●最高裁、連続射殺事件(昭和44年)の差し戻し審で永山則夫被告の上告を棄却、死刑確定。
18(水)●新行革審、公的規制半減の最終答申提出。
19(木)●米の特許取得は日本が上位独占。一位日立、二位東芝、三位キヤノン、と米商務省。
20(金)●証券取引審、銀行の証券業参入を認める答申。
21(土)●JR東日本、山手線に自動改札機を設置。
22(日)●大宮祭反対声明を発表のフェリス女学院大学学長・弓削達宅に右翼団体が銃弾を撃ちこむ。
23(月)●自民党元副総裁・金丸信、北方領土問題で「まず二島返還を。買ってもいいと思う」と発言。
●李鵬中国首相、訪ソ。首相訪問は二六年ぶり。
24(火)●日本人初のシャトル飛行士は毛利衛に決定。
25(水)●日新汽船株売買で、インサイダー取引初摘発。
26(木)●選挙制度審、衆院選に小選挙区制導入を答申。
●長野市に東山魁夷館オープン。
27(金)●米政府、スーパー三〇一条の対日適用を回避。
28(土)●ブロードウェイで一五年間、六一三七回上演のミュージカル「コーラスライン」が閉幕。
29(日)●武豊騎手が競馬の天皇賞で史上初の三連覇。
30(月)●日韓両政府、指紋押捺廃止、永住権自動認可など在日三世の法的地位問題で合意。

◀都はるみ、復帰公演(5月10日)「ふつうのおばさんに戻りたい」と引退宣言してから6年ぶり、東京・渋谷のNHKホールで「北の宿から」などを熱唱。「はるみ節」健在を示し、この日から全国ツアーを始めた。

日刊スポーツ

▼ミャンマー総選挙で反政府勢力が圧勝(5月27日)国民民主連盟(NLD)が全議席の約82パーセントを獲得。ソウ・マウン軍事政権に対し、政権の早期委譲、アウン・サン・スー・チー総書記長らの釈放を迫った。

ロイター・サン/共同通信社

証言・あの日この日

松島トモ子(44)

5月11日(金) 〈父の死から四十五年後、私たち母娘はシベリアの小高い丘の中腹に立っていた。/ふと、母のほうを見てびっくりした。喪服姿に変わっていた。いったい、いつの間に……。/それは亡き夫に会う妻の精いっぱいのおしゃれだったに違いない。/わずか一年たらずの結婚生活、幼子の私を抱えての奉天での日々、引き揚げ船での苦労……。母にはさまざまな思いが込み上げてきたに違いない〉(松島トモ子『母と娘の旅路』)

戦後、天才子役として活躍した松島トモ子の人生にも、映画以上の悲しいドラマがあった。戦時中、三井物産の中国・奉天支店に勤務していた父が、戦後ソ連軍捕虜となりシベリアで病死していたからだ。この日、母と娘は、ソ連のペレストロイカ政策のおかげで、ようやくシベリアの大地に眠る父の墓地にたどり着く。(山崎行太郎)

◀広島―巨人戦に「忍者」(5月12日)大入り満員の広島市民球場のバックネットによじ登り、「巨人ハ永遠ニ不ケツデス!」などの垂れ幕を下げた。男は39歳。酒に酔っており、「桑田はけしからん」などと話した。

日刊スポーツ

▼「名画あさり」の日本人(5月15日)ニューヨークの競売で、大昭和製紙名誉会長・斉藤了英がゴッホ作「ガシェ博士の肖像」を、絵画史上最高の約125億円で落札(写真)。ほかにも2点購入、計250億円になった。

AP/WWP

▼韓国大統領に天皇が「苦しみを思い、痛惜の念」(5月24日)宮中晩餐会で、焦点になっていた日韓間の過去に触れた。写真は歓迎行事にのぞむ天皇・皇后と盧泰愚大統領夫妻。

読売新聞社

平成2年5月

1(火)●貴花田、幕内昇進、一七歳八ヵ月で史上最年少。
2(水)●全国でオゾン美顔器の苦情が急増、と新聞に。
3(木)●民間調査で大卒初任給が平均一七万円突破。
4(金)●子ども(一五歳未満)は二二八三万人で総人口の一八・五%。戦前の半分の割合と総務庁。
5(土)●日本文芸家協会の永山則夫死刑囚入会拒否に抗議し筒井康隆、中上健次らが脱会。
6(日)●最高裁調べで六〇歳以上夫婦の離婚が急増。
7(月)●日本製のタバコ輸出は四年間で約九倍に増加、輸出先の七割はアジア各国、と新聞に。
8(火)●文部省、私立大の定員を二倍まで容認と通達。
9(水)●日銀、地価高騰の一因は金融緩和と自己批判。
10(木)●日本フードサービス協会、単身居住を原則とした外国人労働者六〇万人受け入れ策を提言。
11(金)●文部省、学校机・椅子の規格を大型に改定。
12(土)●日本野鳥の会、超小型電波送信機でコハクチョウの飛行ルートや滞在地確認に初めて成功。
13(日)●ローン破産が若いOLに広がる、と新聞に。
14(月)●富山県魚津市、蜃気楼の人工発生装置開発に成功。開発費一億四〇〇〇万円。
15(火)●大昭和製紙の斉藤了英、ゴッホの「ガシェ博士の肖像」を史上最高の一二五億円で落札。
16(水)●NTT、電話料の取りすぎが一八億円と発表。
17(木)●海部首相、太平洋戦争を「日本の侵略」と発言。
18(金)●東西両ドイツ、通貨・経済・社会同盟に調印。
19(土)●ソ連、宅地私有の公認など新住宅政策を布告。
20(日)●台湾の李登輝総統、大陸敵対政策転換を表明。
21(月)●ゴルフ場建設断念が全国で三一ヵ所と新聞に。
22(火)●千葉県我孫子市に「鳥の博物館」オープン。
●前年の海外旅行者九六六万人、海外旅行赤字は一九三億ドルで世界一位と『観光白書』。
23(水)●北朝鮮の漁船よそおった日本船一二隻が操業中ソ連に拿捕と判明(7月30日一七〇人帰国)。
24(木)●盧泰愚韓国大統領来日。天皇は過去の植民地支配に「痛惜の念を禁じえません」と表明。
25(金)●ソ連政府の市場経済導入発表で、モスクワなどでは食料品などの買いだめパニック始まる。
26(土)●東京・板橋で火薬工場爆発、従業員八人死亡。
27(日)●山梨県上九一色村で「オウム真理教追放住民大会」開催。対策委員会を結成。
28(月)●サハリン在留邦人一二人が戦後初の一時帰国。
29(火)●政府、朝鮮人強制連行の実態調査を決める。
30(水)●ソ連、初めて択捉島の墓参を認める。
31(木)●世界禁煙デーで、厚生省が初の全省禁煙実施。

「現場」を歩く

波野村

「オウム」退去で過疎に戻った村の跡地利用法

山本徹美

▲雪が残る大河原。杉木立に囲まれた“道場跡”は、施設撤去後空地のまま。 但馬一憲

平成二年五月、阿蘇外輪山の北東に位置する熊本県阿蘇郡波野村の山中に、“宅地”を求め「オウム真理教」が現れた。

同月一九日、オウム教団は主宰者・麻原彰晃こと松本智津夫名義で土地売買届出書を同村に提出。そこは同村字大河原五四二番地周辺の原野で、台帳面積五万九〇四八平方メートル、実測面積約一五ヘクタールの広大なもの。国土法に基づき波野村と熊本県が対応を検討している間、同所は“贈与”の形で所有権移転登記がなされ、同月二八日、松本智津夫名義に。すぐさま教団側は開発工事に着手。“道場”なる住居を次々に建設。その間、県と村は国土法および森林法違反の疑いで立ち入り調査をしようとするが、教団側は鉄門を閉ざして外部からの進入を拒む。

住宅が確保できた六月下旬から、信者の流入が始まる。人口二〇〇〇人たらずの山村に、四四八人の信者が転入届を提出。これに対し、村では違法開発を理由に転入を受理しない。一方、教団は行政訴訟と損害賠償請求訴訟を起こす。

平成六年八月一二日、村と教団の間に和解が成立。村はいわば立ち退き料として九億二〇〇〇万円を支払い、教団側は平成九年八月末までに同地を退去、所有権を村に移転することとなった。この和解成立から七ヵ月後、地下鉄サリン事件が発生。松本智津夫ら多くの教団関係者は殺人などの容疑で逮捕された。

過疎でも平和な方がいい

平成一〇年一月末、波野村を訪ねてみた。南国九州にあるものの、ここは海抜七〇〇メートルを越す。日陰には一週間前に降ったという雪が残っている。教団の“道場”があった大河原は杉の森林に囲まれた山奥にある。そこへつながる林道は大木にさえぎられて日光が届かないため、四〇センチくらい積もった雪はまったく溶けていなかった。タクシーの運転手がとても前へは進めないというので、断念。村役場へ。

「暖房器具がいらないのは七月と八月だけ。水稲はできない。蕎麦と高原野菜、牧畜がおもな産業ですが、厳しい環境を嫌って、若者の大半が村外に流出しているのが現状です」（佐藤菊男土木係長）

過疎に悩む村にしてみれば、若い男女の大量転入は、本来なら大歓迎のはず。「危険な集団は困ります。それまで夜、鍵をかけて眠る習慣などなかったのに。たとえ過疎でも、平和な方がいい」

オウムの大河原道場施設はすべて撤去され、更地になった。跡地利用について市原新村長（五一）に訊く。

「和解金を支払ったため、村の新規事業が停滞した。これ以上、あの土地への投資はできません。県と国に研究施設の誘致を打診しているほか、民間からも大型観光施設開発の意向があります」

騒動を逆手にとる「もっこす」魂で、跡地の有効利用がはかれればいいのだが。

▲熊本県阿蘇郡の山中に建設された「オウム真理教」の“道場”。信者は、電気は自家発電、飲料水は井戸を掘って自給していた。

AP／WWP

▶9歳の少年に生体肝移植（6月15日）京大病院で、父親（37）の肝臓の一部を移植。危険性・倫理問題を超え、日本で2例目の手術だった。少年は7月に退院（写真）、順調だったが、12月に吐瀉物を気管に詰まらせ急死した。

読売新聞社

◀秋篠宮夫妻誕生（6月29日）天皇の次男・礼宮（24）と、学習院大教授の長女・川嶋紀子さん（23）が結婚の儀。天皇家の婚姻は常陸宮以来26年ぶり。紀子さんが礼宮の髪を直す仲睦まじい写真に、宮内庁がクレームをつけ、話題になった。

▶中国が反体制物理学者・方励之の出国許可（6月25日）前年6月の天安門事件以来、米国大使館が保護、米中間の大きな障害となっていた。写真は英国へ向かう方氏（54）と夫人。病気治療が許可理由。

ロイター／サンテレフォト

◀米空母「ミッドウェー」爆発・火災（6月20日）房総沖で訓練中だった。死者3人、重軽傷者15人。核疑惑艦だけに、原因究明を求める声が高まったが、機密の壁にはばまれた。

共同通信社

▶大相撲、ブラジル興行（6月11日）8日から3日間、サンパウロ市で、横綱千代の富士らが勝ち抜きトーナメントを行った。写真は興行後、サンバショーを見物する力士たち。

共同通信社

▶バズーカ砲押収（6月25日）香川県の曽根組の武器・覚醒剤密輸事件を捜査中の警察が、山中に隠してあった短銃約20丁などとともに発見。暴力団の武器エスカレートぶりを見せつけられた。

共同通信社

平成2年6月

- 1（金）●米ソ首脳会談、戦略兵器削減条約の年内調印に合意。米ソ新通商協定調印。
- 2（土）●東京・練馬の建設会社社長宅に男二人が押し入り家族を軟禁（4日三億円を強奪し逃走）。
- 3（日）●全農、二三年ぶりに和牛の米国輸出を再開。
- 4（月）●カンボジア和平の東京会議が開幕（～5日）。
- 5（火）●米人女性が外国人初の能（金春流）教授に。
- 6（水）●米惑星探査機が太陽系の全景写真撮影に成功。
- 7（木）●日立製作所、世界最高速の大型コンピュータ試作に成功（7月日本電気、9月富士通も）。
- 8（金）●公取委、海外旅行パンフの不当表示排除命令。
- 9（土）●平均出産数は過去最低の一・五七人と厚生省。
- 10（日）●ペルー大統領選で日系のフジモリ氏が当選。
- 11（月）●建設省、住宅建設五ヵ年計画策定。一戸当たり平均床面積九五平方メートルが目標。
- 12（火）●ベネチア、観客による環境破壊おそれ、二〇〇〇年万博開催地の立候補を辞退。
- 13（水）●大阪市、職員採用で国籍条項を全廃。
- 14（木）●東京都、豪華な知事室批判に新庁舎を公開。
- 15（金）●京大病院で父から小学校四年の男子に生体肝移植手術（19日信州大など年内一〇例実施）。
- 16（土）●警視庁、「しゃべる」道路標識開発（8月設置）。
- 17（日）●チェルノブイリ被曝者第一回全ソ大会をキエフで開催。約五万人が重い障害と公表。
- 18（月）●総務庁、AT車専用免許制度の新設を勧告。
- 19（火）●東工大、生命理工学部設置。生物工学科など三学科、バイオテクノロジーを研究。
- 20（水）●ソ連抑留の元日本兵は五四万六〇八六人、死亡者六万二〇六八人とソ連が公表。
 ●尊厳死宣言の登録が八〇〇〇人突破と新聞に。
- 21（木）●イラン北西部で大地震。死者五万人近くに。
- 22（金）●日本の政府開発援助（ODA）は八九億ドルで米を抜き世界最大の援助国、と外務省。
- 23（土）●海部首相、首相初の沖縄全戦没者追悼式参列。
- 24（日）●テレビ新広島、女性アナのプロ野球実況中継。
- 25（月）●電気通信技術審、電波から人体守る安全基準を初めて答申。体重一キロ当たり〇・五ワット以下。
- 26（火）●経企庁、内需堅調で好景気は戦後二番目の長さの四三ヵ月連続と報告。
- 27（水）●スパイクタイヤ粉じん発生防止法公布。
- 28（木）●大蔵省、マネー・ロンダリング防止を通達。
- 29（金）●礼宮と川嶋紀子さん結婚の儀。秋篠宮家創設。
- 30（土）●オゾン層保護のためのモントリオール議定書締約国会議、フロンの二〇〇〇年全廃を決議。

ベストセラー
高まるジャパンバッシングに『「NO」と言える日本』反論

日本経済のとどまるところを知らない急成長は、世界各国から注目を集めた。それも、かならずしもポジティブなものばかりでなく、否定的な見方も少なからずあり、アメリカの対日批判はその急先鋒となっていた。これに対して日本経済の正当性と将来性を明確に打ち出したのが、『「NO」と言える日本』で、ジャパンバッシングにいらついていた層に大歓迎されベストセラーになった。世界的な経営者として認められていたソニーの盛田昭夫と、タカ派の政治家・石原慎太郎の共著で、モノを作らないアメリカ経済への鋭い批判や、日本の先端技術、とりわけ半導体生産技術の優秀さを語り、日本経済に自信を取り戻させる大きな役割をはたすことになった。

一方、大学内における旧態依然たるヒエラルキーと、そこに閉じこもる学者たちの実態をなまなましく描き出した、筒井康隆の『文学部唯野教授』もよく売れた。大学のあり方を根底から問うたはずの全共闘運動が跡形もなく消え去っていたこの時代に、あえて大学の教授たちを槍玉にあげ、好景気に浮かれはしゃぐ世間にも冷や水をあびせかけた。

また、経済の急成長とともに表面に浮かび上がってきた〝飽食の時代〟を、真っ向から斬って捨ててみせた西丸震哉の『41歳寿命説』も、センセーショナルな話題を呼んだ。「昭和三四年以降に生まれた日本人だけで構成される社会になった時、日本人の平均寿命は四一歳になる」という著者の予測が、着々と現実のものになっていると言うのだ。成人病の激増、過労死、突然死の頻発、ストレスフルな生活など、すでにその兆候は顕著だと指摘し、現代人にリアルな警告を発したのである。

●平成2年のベストセラー

順位	書名(著者/出版社)
1位	「愛される理由」(二谷友里恵/朝日新聞社)
2位	「真夜中は別の顔(上・下)」(シドニイ・シェルダン/アカデミー出版)
3位	「「NO」と言える日本」(石原慎太郎・盛田昭夫/光文社)
4位	「ドラゴンクエストⅣ公式ガイドブック(上・下)」(エニックス編/エニックス)
5位	「明日があるなら(上・下)」(シドニイ・シェルダン/アカデミー出版)
6位	「「1998年日本崩壊」エドガー・ケイシーの大予告」(五島勉/青春出版社)
7位	「文学部唯野教授」(筒井康隆/岩波書店)
8位	「恋愛論」(柴門ふみ/PHP研究所)
9位	「うたかた(上・下)」(渡辺淳一/講談社)
10位	「41歳寿命説」(西丸震哉/情報センター出版局)

全国出版協会出版科学研究所

▲「「NO」と言える日本」(820円)

▲「文学部唯野教授」(1300円)

▲「41歳寿命説」(910円)

スターと名場面
「少年時代」と「櫻の園」マンガの映画化が大好評!

新宿・歌舞伎町を舞台に、昭和四〇年代から平成にかけての時代を、ハードボイルドタッチで描いた「われに撃つ用意あり」(若松孝二監督)がこの年公開された。元全共闘の仲間が集まるシーンから始まるこの映画は、日本のヤクザにおびやかされる外国人女性も登場させて、繁栄を謳歌する日本経済のもうひとつの側面を浮かび上がらせた。

また一気に時代を戦時中の昭和一九年にまでさかのぼり、富山の親戚の家に疎開した少年と地元の少年、つまり都会の少年と田舎の少年との交流を描いた「少年時代」も話題になった。柏原兵三の小説を藤子不二雄Ⓐがマンガに描き、それを自身がプロデュースして、山田太一脚本、篠田正浩監督で映画化したもの。

マンガの映画化というと「櫻の園」(中原俊監督)もそのひとつで、この年評判を呼んだ。女子高演劇部恒例の「櫻の園」上演をめぐっての、女子高生の心の動きが、開演二時間前から開演までに焦点をしぼってナイーブに描き出された。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。「鉄拳」(桐島かれん)/「フィールド・オブ・ドリームス」(ケヴィン・コスナー)/「ゴースト ニューヨークの幻」(デミ・ムーア)

松竹提供

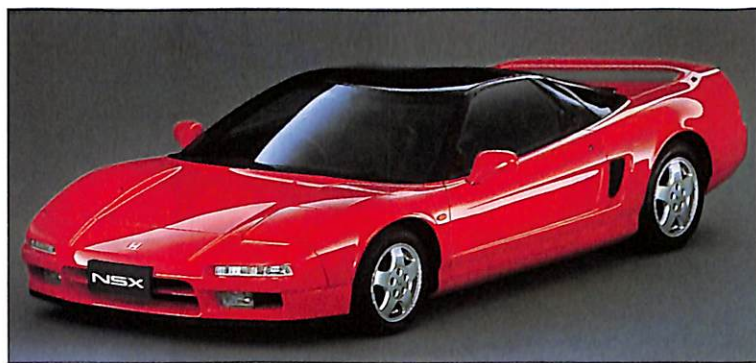
▲「われに撃つ用意あり」で主役を演じた絶妙のコンビ、原田芳雄(右)と桃井かおり(左)。

▼「少年時代」で、疎開してきた都会の少年(中央=藤田哲也)は、いきなり田舎の少年たちの中に投げこまれた。

藤子スタジオ提供

▲「櫻の園」でういういしい演技を見せた、白鳥靖代(右)と中島ひろ子(左)。

モノ語り'90
健康からファッション感覚まで「鉄骨飲料」「キリン一番搾り」「ピーチツリー フィズ」

▶**近未来感覚のスポーツカー登場**　本田技研工業はこの年9月に、超音速ジェット機をイメージした新世代スポーツカー「NSX」を発売、時代を象徴する高性能の自動車として評判を呼んだ。オールアルミ合金のボディで軽量化をはかり、エンジンも高出力・高回転で性能アップ。トランスミッションもそれに対応して、すばやいシフトが可能な5速マニュアルミッションとマニュアル感覚の4速オートマチックを実現した。価格は800万3000〜860万3000円。

◀**新鮮さを感じさせるビール**　キリンビールはこの年3月から「キリン一番搾り〈生〉ビール」を発売し、ヒットさせた。一番搾りとは、麦汁濾過(ろか)機から最初に流れ出る麦汁のことで、これを発酵させたもの。上品なコク、ストレートなのどごし、さっぱりした後口を売りにして、ビールファンの人気を呼んだ。大瓶320円、350ミリリットル缶220円など。

▲**〝果汁100パーセント〟で売った新しいお菓子**　明治製菓が昭和63年に発売した「果汁グミ」が、この年100億円を売り上げる大ヒット商品に急成長した。ゼリーより硬目で、グニグニした噛み心地が特徴のグミに、オレンジやグレープの果汁を加えたもの。5倍に濃縮した果汁を20パーセント含ませて得た換算値〝100パーセント〟を前面に出した。噛むことが体にいいことも合わせて、健康菓子のイメージを強調し、これが大ヒットにつながった。1袋72グラム、100円。

▶**軽いタッチで飲めるカクテル**　急増する女性愛飲者に向けて、200ミリリットル入りアルミ缶のカクテル「オリジナル　ピーチツリー フィズ」が、1本200円でメルシャンから発売された。桃のイラストをあしらった缶のデザイン、ピンク色で軽い発泡性があり、アルコール度をおさえた、まさに女性向けのアルコール飲料だった。

◀**ミネラル補充の健康飲料**　サントリーが前年に発売した「サントリー　カルシウム+アイアン飲料　鉄骨飲料」が、この年売り上げを大きく伸ばした。現代人に不足しているカルシウムと鉄を補充する健康飲料として開発され、新しい市場の開拓に成功した。1本120ミリリットル入り97円。

◀**ファジーで全自動洗濯**　流行のファジー理論を応用した全自動洗濯機「愛妻号Dayファジィ」が、松下電器産業から1台8万3000円で発売され、話題を呼んだ。洗濯物の量はもちろん、汚れの程度や質、それに洗剤の種類をファジー制御で検知し、最適の洗濯時間を自動的に決めるというものだった。

▶**いよいよハンディな携帯電話の時代に**　携帯電話の名にふさわしい小型軽量の「IDOハンディフォン　ミニモ」が日本移動通信から発売され、携帯電話ブームに火をつけた。発売当時は世界最軽量の298グラムで、〝小さい〟を意味するイタリア語の最上級語〝ミニモ〟の名に恥じないものだった。通話可能なサービスエリアは、首都圏と中部圏に限られていたが、ハンディタイプの画期的なデザインもあって、人気を呼んだ。

人物クローズアップ

アルベルト・フジモリ（五二）
「変革90」で逆風をはね返し南米初の日系人大統領に！

◀フジモリは、大統領選後来日。7月4日に故郷・熊本を訪問し、県庁前で沿道を埋める市民に手を振ってこたえた。

「日系フジモリ氏が当選　ペルー大統領選決選投票　バルガスリョサ氏に大差」

平成二年六月一一日付「朝日新聞」夕刊一面は、南米初の日系人大統領の誕生を報じた。同夕刊は、この地球の反対側から届いた大ニュースを社会面でも取り上げ、「『ルーツの地』にも歓声　『フジモリ大統領』誕生　早朝、朗報かけ巡る親せき『命かける覚悟で』」と、日系移民を両親に持つフジモリ大統領ゆかりの地、熊本の熱気を大見出しで伝えた。

選挙戦を勝ち抜いたフジモリ大統領（五二）は、スサナ夫人（当時）とともに、ペルーの首都・リマの町中に繰り出し、下馬評をくつがえした奇跡に酔った。

当初、有力候補は国民的人気作家のバルガスリョサとされていた。フジモリは知名度で遠くおよばず、また選挙資金の面でも、有名人で強力な後ろ盾を持つライバルに水をあけられていた。さらに、ペルーの日系人社会もフジモリ支持に消極的だった。もしフジモリが泥沼の経済危機にあえぐペルーを救えない場合、日系人社会が非難にさらされるとの危惧の念がはたらいたためだ。だが、これらの逆風をフジモリは「カンビオ（変革）90」を合い言葉に、人口の半数を占める貧困層を味方につけてはね返したのである。

◀父母の出身地、熊本県飽託郡河内町の叔父（右）宅でくつろぐフジモリ。

朝日新聞社

▲7月28日、リマの国会下院議場で行われた大統領就任式で。

アルベルト・フジモリは、昭和一三年リマ生まれの日系二世で、日本名は謙也。実直な父・直一と気丈な母・ムツエの間に育った。誕生後ほどなく太平洋戦争が始まり、そして迎えた日本の敗戦。母国の勝利を信じていた母・ムツエは、逆境の中で生活を守るには自分の信じる道を進むしかないと決意したという。また日本の敗北は、日系人の意識をペルーへと向けさせ、〝第二の祖国〟ペルーに骨を埋める覚悟を芽生えさせたとも言われる。まだ幼いフジモリが、母の信念と、日系人の意識変化の真っただ中で育ったことが、後年のフジモリ大統領の誕生につながったのかもしれない。それを裏づけるのは、「ペルーにいるなら、ペルー人にならなければ」という彼の口癖である。

フジモリはラ・モリナ国立農科大学を首席で卒業後、欧米の複数の大学に留学。やがて母校に戻り、昭和五九年以降、学長に在任。教授時代に学生紛争の調停に手腕を振るった彼は、昭和六二年に国営テレビの政治討論番組の司会者に抜擢されると、翌年、無党派の学者を糾合し政治組織〝カンビオ90〟を結成。やがて学長の職を辞して大統領選に乗り出す。

フジモリ一家のドキュメント『ペルー遥かな道』（中公文庫）の著者である、「産経新聞」の元外信部長・千野境子氏（現・シンガポール支局長）はこう語る。

「日系人大統領の誕生は、勤勉で真面目だが、権力を志向しないおとなしい日系人というイメージを変えた。とはいえ、日系社会の全体像を変えるにはいたっていないと思う。やはり、彼は日本人の血が流れるものの中では、まだまだ例外的な存在なのかもしれない。そこが、フジモリという人間の魅力でもあるのです」

大統領就任で日系人の星とたたえられたフジモリだが、平成八年の、「ペルー日本大使公邸人質事件」では、それまでのイメージをくつがえす、非妥協的な横顔をのぞかせた。みずからの信念と、政治的敵対者の人命とを天秤にかけたフジモリ大統領の選択には、いささかの迷いもなかったのだろうか。

朝日新聞社

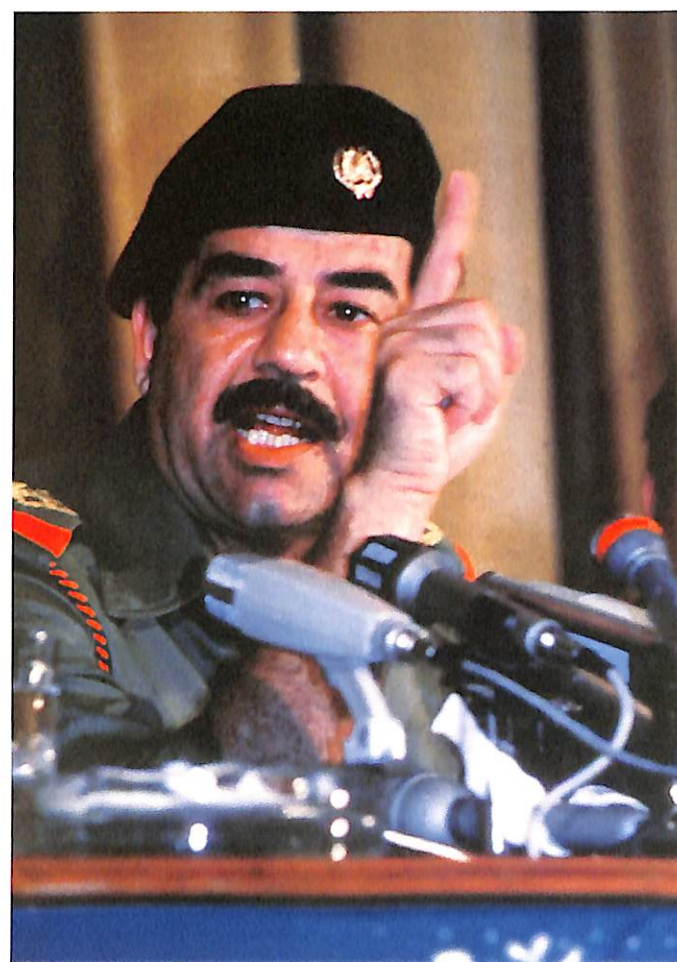
「イラクの一部が戻るだけ」サダム・フセインの〝賭け〟クウェートへ侵攻を開始！

◀クウェート市内に侵入するイラク軍戦車。首都制圧後、イラクは暫定政府の樹立を発表した。

ジョージ・フェラーリ／オリオン・プレス

一九九〇年七月一九日の衛星写真によると、イラク軍は、クウェートの国境付近に、ハムラビ師団など精鋭部隊を集結させていた。これら戦車隊を含む師団は、渦巻き状の陣形を敷いて戦闘に備えているように見える。その後も師団の数はふえ続け、七月末までにイラク軍は一〇万人の軍隊を国境に集結させていた。

イラクのサダム・フセイン大統領（五三）は七月一七日の革命記念日に、クウェートの石油生産協定無視を非難して、「言葉で解決できなければ、ほかの手段で損失を回復しなければならない」と演説をしていた。このため、サウジアラビアやエジプトが両国の関係改善に奔走。調停努力は米国にも報告されていたが、米国の軍事筋はイラク軍の行動に対して、本格侵攻なのか、脅しを含んだ軍事演習なのか判断に迷っていた。

AP WWP

▲フセイン大統領は、在留外国人を人質に取り、戦略拠点に分散収容した。

ところが、関係するすべての国の予想を裏切り、八月二日未明、一〇万のイラク軍が国境を越えた。数時間の後には、三五〇両の戦車がクウェートの首都に押し寄せ、ダスマン宮殿は二時間の警護隊との攻防で陥落し、国営放送局、政府機関などは侵攻後六時間でほぼ制圧された。一方、クウェートのジャビル首長（六二）は前日の夜、特殊治安部隊からの情報で国境に近いバルという町に移動。八月二日の未明にはサウジアラビア領内に入っていた。また政府の要人たちにも、前日の日没までに市の郊外に脱出するよう忠告がなされていた（『アラブからみた湾岸戦争』時事通信社）。

それにしても、クウェートは軍事的に抵抗らしき抵抗を行っていない。当時のイラク軍の、兵力一〇〇万人、戦車五五〇〇両、作戦機五一三機に対して、クウェート軍は兵力二万二〇〇〇人、戦車二七五両、作戦機三六機。この数字を見ても、クウェートが圧倒的に劣勢であることがわかるが、イラクの侵攻を直前まで予想していなかったことも、わずか六時間で首都を占拠されるという事態を招いたと考えられている。

イラクがクウェートを侵攻したことは、アメリカにとって、冷戦後の世界秩序を破壊する言語道断の侵略行為である。しかし、イラクの側から言えばいくつかの理由があった。歴史的に見て、クウェートはもともとイラクの領土であるという主張を背景に、国境のルマイラ油田の紛争、フォア半島沖のワルバ、ブビアン両島の帰属問題、借款（しゃっかん）のこじれなどの問題が起きていた。しかし、一番大きな問題はクウェートが原油の生産割り当て無視の政策をとったことだろう。イラン・イラク戦争でイラクの経済は疲弊（ひへい）しきっていた。イラクが経済的に立ち直るには、原油価格の値上げで収入をふやすしかなかったが、クウェートは原油価格を上げるための「生産調整には協力しない」という態度を崩さなかった。「クウェートをイランから守ったのは自分たちだ」というサダム・フセインの思いこみは、クウェートに無視されていた。

侵攻の事実を「イラクの一部がイラクに戻るだけだ」とフセインは正当化したが、さすがにアラブ諸国もこの論理には反発。八月一〇日に催された緊急アラブ首脳会議では、大半の国（一二ヵ国）がイラクを非難し、サウジアラビア防衛への合同軍派遣を決定した。こうしてイラクは急速に孤立し、サダム・フセインは〝中東のヒトラー〟という汚名をあび、二八ヵ国にもおよぶ多国籍軍を敵にまわして戦うこととなる。

美の出会い

「一回妻の死に出会えば……」陽子夫人の最期を撮り続けた“天才”アラーキーの心の一冊

◀葬儀で陽子夫人の遺影を手に。荒木は、「このポートレイトを生涯私は超えることはできないであろう」と記している。
荒木経惟（3点とも）

「天才アラーキー」「女陰カメラマン」「私写真家」などと自他ともに称し、いかがわしさを漂わせながらも幅広い支持者を持つカメラマン・荒木経惟は、日本のマス・メディアを席巻しているだけでなく、世界のアーチストからも注目される日本を代表する写真家の一人である。

この「天才」の愛妻であり不可欠の被写体であった陽子夫人が、平成二年一月二七日、四二歳で亡くなった。荒木（四九）は陽子さんの入院から死、葬儀、そして一人になった自宅風景までシャッターを押し続け、この記録は翌三年に『センチメンタルな旅　冬の旅』（新潮社）として発表される。この写真集は多くの読者を得て、平成九年に九刷りを記録し、写真集では稀なロングセラーとなった。

しかし、こうした自分の妻の死をテーマにした写真集について、一部から顰蹙の声も上がっている。写真家の篠山紀信は、新潮社のPR誌「波」（平成三年二月号）で荒木と対談した折、次のように抗議した。

「あなたの写真は一面的じゃないというか、多義性を孕んでいるからこそ面白かったんじゃないですか。本当のことをいうとこれは最悪だと思うよ。荒木ほどの奴がこれをやっちゃったのはどういうことかと思ったね」

これに対して荒木は「一回妻の死に出会えばそうなる」とだけ答えている。

篠山の追及はさらに続いた。互いに写真家としての力量を認めあえばこそ、発せられた対談のディテールは、同時に方向の違いを明確にさせた優れた写真論ともなっている。

愛妻の死をバネにして、荒木は驚異的なエネルギーで、この平成二年には六冊の写真集を発表。荒木夫妻に「ウチのコ」として可愛がられた猫の記録『愛しのチロ』（平凡社）をはじめ、『平成元年』（アイピーシー）、『Foto Tanz』（アイピーシー）、『東京ラッキーホール』（太田出版）、『冬へ』（マガジンハウス）、テレビドラマを小説化した本に写真を挿入した『ネコノトピア・ネコノマニア』（太田出版）など、ガムシャラに突き進んだとも思えるほどの成果であった。

荒木経惟が生まれたのは、昭和一五年五月二五日、東京下谷区（現・台東区）三ノ輪だった。生家の斜め前には、遊女の投げこみ寺として有名な浄閑寺がある。下駄製造販売業をしていた父は、アマチュアカメラマンでもあり、荒木は小学生になった頃から、父の助手をしていたという。昭和三四年、都立上野高校から千葉大学工学部写真印刷工学科に入学。学生時代は映画に熱中する一方、カメラ雑誌の月例コンテストに応募し賞金稼ぎをしていた。昭和三八年、電通に入社。翌三九年、東京・三河島の子どもを撮った「さっちん」で第一回太陽賞を受賞した。この賞は平凡社の雑誌「太陽」が創設したもので、審査員には伊藤整、伊奈信男、木村伊兵衛、中島健蔵、羽仁進、原弘、東山魁夷、渡辺義雄ら、そうそうたるメンバーが名をつらねていた。

電通時代に同総務局文書課にいた青木陽子と出会い、昭和四六年に結婚。『センチメンタルな旅　冬の旅』の『センチメンタルな旅』は、この新婚旅行を記録したもので、一〇〇〇部限定の私家版として発表された。

写真評論家の飯沢耕太郎氏は「荒木さんはマイナーに徹し、マイナーを突き抜けた表現者だ」と言う。「新婚旅行というプライベートな出来事を、人間の普遍的・神話的な出来事として表現することに成功した」とも絶賛する。この写真集はカメラマンはもとより、劇作家の寺山修司や詩人の吉増剛造らをも驚愕させた。ここに写真家・荒木が誕生したのである。

荒木にとって、これほど大きな意味を持つ陽子さんについて、彼は飯沢氏のインタビューにこたえて語っている。

「陽子が天才にしてくれた。そしていまもいろんな女たちがオレを天才にしてくれ続けてるの。いやあ、まだ終わりませんよ。『天才アラーキー』を超えますよ。いよいよ超天才だね」（『天才になる！』講談社現代新書）

平成九年九月、オーストリアのウィーン・セセッション会館百周年記念として「荒木展」が開かれ、同年一〇月には荒木夫妻をモデルにした竹中直人監督の映画「東京日和」が公開された。

人間の性と生、そして死に対し、正面からストレートに取り組む表現者として、今、荒木は世界中から注目されている。

▲小舟の中に横たわる陽子夫人。夫人は『センチメンタルな旅　冬の旅』の作品の中では、この1枚だけが好きだったという

▶「この写真がふたりでの最後の写真になってしまった」（『センチメンタルな旅　冬の旅』より）。

20世紀博物館

五十嵐健治記念洗濯資料館

東京・大田区

「ドライクリーニング」が日本に定着するまでの試行錯誤の足跡

桑原茂夫

この資料館で好奇の目を開かされたのは、何よりも〝ドライクリーニング〟が洋服の普及と表裏一体の関係にあったという、その歴史と技術にである。

▲かつて用いられていたドライクリーニングの機械（ワッシャー）。中に木製の板が張ってあるが、これは生地を傷めないための工夫だった。この板に生地がひっかかれば、ただちに取り替えたという。 奥村健太郎

鹿鳴館の時代、つまり洋服黎明期にその洗濯はどうしていたかというと、糸をほどいて洗い張りするわけにもいかなかったから、汚れたままヨーロッパに送り、クリーニングの注文を出していたというのだ。手に入れた輸入機械のメンテナンスを輸入先に依頼するような、そんな感覚だったのだろう。

これをなんとか自前でできないかと考えたのが、五十嵐健治という人で、明治三九年にクリーニング店「白洋舎」を設立。ただちにドライクリーニングの研究に着手し、同四一年には実用化に成功している。

しかし白洋舎といえども、初めのうちは手による水洗いで、荒っぽい職人も多かったそうだ。この資料館に、当時用いられていた大型の洗濯桶と、これも大型の洗濯板で「ザラ板」と呼ばれた板が展示してある。これを使っている様子を写した当時の写真もパネルになっているが、それらを見ると洗濯はまさに力仕事であり、男っぽい作業場だった雰囲気が見えてくる。

▶乾燥と皺伸ばしのために使用されたアイロンが、ずらりと並ぶ。炭火で高温を得るタイプから、電気で熱くするものなどさまざまで、素材や技術は実に多様である。

▼手前左が、創業期の洗濯物配送用の箱車。左奥に見えるのは当時、北海道で用いられていたソリ式の箱車。右奥に見えるのが、洗濯桶とザラ板である。

失敗から学ぶ技術

一方で、やはり創業期に用いられていた配送用の箱車の複製展示を見ると、箱に「乾式洗濯・白洋舎」とあり、ドライクリーニング方式そのものがセールスポイントになっていたことがわかる。しかし、従来の洗濯とはうって変わって、揮発油などアブラの類を使って汚れを取ろうというのだから、試行錯誤が続いたことも想像に難くない。次々に新しい生地素材や染色技術が開発されている今もまだ、試行錯誤の時代なのかもしれない。

展示スペースの一角に、クリーニングの失敗作がハンガーに吊るされ並べられているのが、そのことをものがたっている。どうしても抜けないシミができてしまったり、一部が色落ちしてしまったり、その失敗の理由もひとつひとつ記してあるのは、さすが企業博物館だ。そのような失敗から学んだことが、現在のクリーニング技術に生かされていることはいうまでもない。

なお、この資料館の大きな特徴のひとつに、工場見学もできるという点があるが、資料館内に限っても、シミ抜きの作業場があって、作業がのぞけるようになっている。またここには内外八〇〇〇冊の書籍がそろっており、閲覧もできる。洗濯はもとより、染色、防菌・防カビ・防虫など、テーマはいろいろなジャンルにおよんでいる。卒論にいそしむ家政学科の学生も利用するそうだが、ふっと、こういう資料室に入って、衣類周辺を科学するのも面白そうだ。

洗濯から広がる世界は、未開拓の分野もあり、思っていたよりも奥が深そうだというのが、この資料館から得られた実感である。

▲シミ抜き工房。ここには、シミ抜きの大ベテランがいて、全国各地の白洋舎から派遣されてきたシミ抜きの専門家に、さらに新しい技術を教えてもいる。

●五十嵐健治記念洗濯資料館
東京都大田区下丸子二─一一─一
白洋舎東京支店内
☎〇三─三七五九─一三三六
東急目蒲線下丸子駅下車、徒歩七分
開館時間＝一〇時〜一七時
休館日＝土・日曜日、祝日、年末年始
入館料＝無料

日本列島を襲った「1.57ショック」
結婚したくない女性たちと史上最低の出生率
ついに少子化社会がやって来た！

▲少子化により、家族のサイズは小さくなるばかり。一方この年、3世代が同居する家族を描いたテレビアニメ「ちびまる子ちゃん」が、圧倒的な支持を得ている。 島内英佑

この年、一人の女性が一生のうちに産む子どもの数が、ついに過去最低の一・五七人を記録したというニュースは、国民に衝撃を与えた。政府は事態を重く受けとめ、子育て支援策を打ち出した。しかし、その後も出生率は年々低下するばかり。本格的な「少子化・超高齢化社会」が目前に迫ってきた。

出生率の低下を招いた女性の非婚化・晩婚化

平成二年六月、日本列島を「一・五七ショック」が駆けめぐった。「合計特殊出生率」、つまり、一人の女性が一生のうちに平均何人の子どもを産むかという調査で、史上最低の一・五七人を記録したと厚生省が発表したからだ。

「実のところ、私は以前からこの数値を予測していました」

と言うのは評論家の樋口恵子さんだ。

「ショックを受けたのは、右肩上がりの上昇に幻想を持っている拡大論者の男性でしょう。昭和四一年の丙午の年の出生率が一・五八でした。これは迷信が現代にも生きていて『産み控え』だと思われました。事実、翌年は回復したのですが、その後一貫してじわじわと低下しています。そして特別の年だったはずの丙午を〇・〇一ポイント下回ったのでショックが倍加されたのでしょう」（樋口氏）

マスコミは一斉にこれを取り上げ、閣議でも原因は何かが論議された。

また、同様の出生率低下に悩む先進国の間では、この年の前後二、三年、スウェーデンやノルウェーなど北欧で出生率

がわずかに上昇していたため、その原因をめぐって国連人口部でも熱心な議論が交わされた。

女性に関する新聞切り抜き情報誌「女性情報」七・八月号は、出生率に関する記事を集めたところ、約二〇ページが埋まってしまった。以降、数ヵ月、同様な事態が続くほど、日本中がこの話題で持ちきりだったのである。

出生率低下の背景には、住宅事情や養育費の増大などさまざまな理由が考えられるが、一番の原因は女性の非婚化・晩婚化だと、専門家は分析した。

平成二年の日本の平均初婚年齢は、男性二九・七歳、女性二六・九歳まで上昇した。昭和二〇年代なかばに比べ、男性が三・八歳、女性が三・九歳もアップしている。また、二五〜二九歳の女性の未婚率は、昭和四〇年の一九パーセントから平成二年には四〇・二パーセントまで急上昇した。

これらの要因として、女性の高学歴化と社会進出、それにともなう結婚観の変化があげられている。「男女雇用機会均等法」が施行されたのは昭和六〇年のことだった。これは「男並みに仕事をすれば、男並みの待遇が受けられる」というものだった。だが、女性にとって最大の「男並み」とは、「子どもを産まないこと」にほかならなかったのである。

また、少子化にともない、わが子を過保護気味に育てる母親たちも目立ち始めた。「一・五七ショック」は流行語にもなったが、翌平成三年に発表された出生率は一・五三人とさらに下回り、平成七年には一・四二人にまで低下した。日本はドイツ、イタリアに次いで子どもを産まない社会となったのである。

迫りくる人口減に日本の対応策は？

少子化の波は社会にさまざまな影響を与えた。まず全国で小・中学校や学級数が減り始めた。ちなみに平成元年から九年の間には、三九〇の幼稚園と四七五の小学校が消えた。塾や学校も熾烈なサバイバル戦争に突入。都内のある予備校は、学生集めに「成績優秀者に奨学金一〇〇万円」と宣伝して話題を呼んだ。

「分娩お断り」という婦人科医が急増したのもこの頃からだった。平成二年に横浜市医師会が行った調査では、市内の開業産婦人科医の約三割が分娩を扱っていないことがわかった。妊婦が激減したうえ、分娩室、新生児室などの設備を要し、しかも夜昼問わずお呼びがかかる「産科」は、「割が合わないもの」となったのである。

さらに少子化の最大の影響は、人口減と高齢化率のアップとなって現れる。厚生省国立社会保障・人口問題研究所の調査によれば、日本の人口は平成一九年の一億二八〇〇万人をピークに減少に転じ、平成六二年には一億人になると推計している。また、六五歳以上の高齢者の総人口に占める割合は、平成七年の一四・六パーセントから、平成三七年には二七・四パーセントになると見こまれている。四人に一人以上がお年寄りとなるのである。

こうした事態が招くのは、労働力の減少、経済活力の低下である。これにはどんな対策があるのか。学習院大学経済学部の奥村洋彦教授はこう主張する。

「日本に必要なのは、高齢者や女性の就労機会を奪う制約をのぞき、出生率を引き上げ、労働力の落ちこみを小幅にとどめて経済を成長させることです」

実際、政府は、平成六年、「エンゼルプラン」を策定し、低年齢児の延長保育の実施などを提案、さらに平成七年から育児休業制度をすべての事業主に義務づけるなどの措置をとったが、出生率低下の効果的な歯止めとはならなかった。

奥村氏は、官民の対策は、事態への切迫感が乏しい、と次のように続ける。

「企業側も、何らかの制度的手当てが与えられない限り、現状を変える経済的動機づけを持ちにくいのです。政府が、出産・育児に関連した優遇措置などを現状を大幅に上回るスケールで民間に与えなければ、企業は動きません。また、高齢者を雇う企業にも何らかの優遇措置をとるとか、アメリカ同様に『年齢差別禁止法』を導入し、定年制を廃止するといった措置が必要だと私は考えています」

本格的な「少子化・超高齢化社会」が迫りくる今こそ、政府はあらためてこの課題に真剣に取り組む必要があるだろう。

▲高層ビルの激増と土地高騰、児童数の減少などで、都心の小学校が消えていく。写真の新宿区立淀橋第2小学校は、昭和61年3月に廃校となった。 毎日新聞社

◀京都市北区の柏野小学校では、児童数が年年減っており、総数22人と全学年で最も少ない2年生は、10人編成の給食当番が1週間おきにまわってくる。

山岡正剛

▶"少なく生んで大事に育てる"傾向を反映して、子ども服の高級ブランド品が登場。

読売新聞社

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

▶フィリピンで大地震（7月16日）ルソン島中・北部でM6.2。カバナツアン市では、学校が授業中に倒壊（写真）、高原観光都市バギオでは4つの国際ホテルが全・半壊するなど、死者1661人、不明46人の惨事だった。

読売新聞社

◀遅れる関西国際空港工事（7月）約1兆円を投じ、平成5年開港をめざしたが、地盤沈下などで頓挫。6年、2本のうち1本の滑走路だけで開業した。写真は空港との連絡橋工事。

共同通信社

▲神戸の女子高生、校門で圧死（7月6日）始業チャイムと同時に駆けこもうとしたところ、男性教諭（39）が幅6メートルの鉄製門扉を閉じた。いきすぎた管理が問題になった。

読売新聞社

▼西独、W杯サッカーで優勝（7月8日）ローマで行われた決勝戦で、「マラドーナ封じ」に成功。宿敵アルゼンチンを1対0で破り、前回の雪辱をはたした。16年ぶり3度目の優勝で、東西ドイツ統一への前祝いとなった。

ユニフォト・プレス

▼諏訪内晶子（18）、3部門で優勝（7月5日）モスクワのチャイコフスキー国際コンクールバイオリン部門で、日本人初の優勝。バッハとチャイコフスキー作品の最優秀演奏者賞も受賞した。

AP／WWP

▲「人魚伝説」浮上（7月18日）神奈川県小田原市の海岸を、ゆらゆら泳ぐのを海水浴客が発見、漁師が引き揚げた。体長4メートル、重さ100キロ、人魚伝説のある深海魚リュウグウノツカイだった。

毎日新聞社

平成2年7月

1（日）●建設談合の中央組織「経営懇話会」が解散。
2（月）●メッカで将棋倒しの巡礼者一四二六人死亡。
3（火）●九州地方に豪雨。土砂崩れなどで死者二七人。
4（水）●生保各社が死亡保険の生前支払い導入。
5（木）●中国で漢字の俳句、「漢俳」が流行、と新聞に。
6（金）●兵庫県立神戸高塚高校で、女生徒が教師のしめた門扉に挟まれ死亡（校門圧死事件）。
7（土）●インサイダー取引監視で大蔵省に検事出向。
8（日）●サッカーW杯、西独がアルゼンチン破り優勝。
9（月）●米誌の世界富豪番付で堤義明が四年連続一位。
10（火）●都議会が粗大ゴミの全面有料化条例を可決。
11（水）●運輸相、リニア開業を二〇〇一年元日と言明。
12（木）●早大のコンピュータ一〇〇台がウイルス汚染。
13（金）●損保各社、エアバッグつき自動車の死亡事故に、保険金割増制導入を決める。
14（土）●作家・立松和平、栃木県のゴルフ場建設認可に抗議し県をPRする「マロニエ特使」を辞退。
15（日）●新幹線通勤認める会社が五〇社突破と新聞に。
16（月）●銀行と信金・農協などのCDオンライン開始。
●北京で開かれた高校生の国際数学オリンピックで、初参加の日本は銀二個、銅一個獲得。
●道路公団、世界銀行からの東名高速道路建設費借款三億八〇〇〇万ドルを完済と発表。
17（火）●京都市、全国初のワンルームマンション規制。
18（水）●米上院、数学・科学技術向上法案可決。二〇〇〇年までに基礎学力世界一をめざす。
19（木）●NTT、ポケベルの広域呼び出しを申請。
20（金）●大阪に世界最大規模の水族館・海遊館がオープン。ウォーターフロント事業の先駆け。
21（土）●海外留学がブームで米の日本人在学生二万四〇〇〇人、短期在学や語学校が多いと新聞に。
22（日）●熱帯の保護研究のため日本熱帯生態学会設立。
23（月）●川崎市、豪に自治体初の海外保養施設建設。
24（火）●自治省、沖縄慰霊の日など自治体の休日容認。
25（水）●旭富士、六三代横綱に昇進。
26（木）●山一証券など一四社による昭和六二年一〇月からの計一六五億円の損失補塡判明と国税庁。
27（金）●国際医学団体協議会、生殖細胞除外を条件に遺伝子治療を容認する「犬山宣言」を採択。
28（土）●東京で家族心理学の初の国際シンポジウム。
29（日）●東北大が乳児の突然死招く難病の原因を解明。
30（月）●日本居住者の海外預金大幅自由化を実施。
31（火）●東京・江戸川区で洋式トイレへの改造に、洋式は生徒が汚すを理由に教師が反発と新聞に。

◀マラソンの金井・谷口が事故死（8月23日）北海道網走支庁の国道で、乗っていたワゴン車がトラックと衝突。9月開催のアジア大会代表で合宿中だった。二人はヱスビー食品社員。統括監督の瀬古利彦は、旅館にいて無事だった。

朝日新聞社

▲森重文京大教授にフィールズ賞（8月21日）京都で開かれた国際数学者会議で、「数学のノーベル賞」を受賞した。日本人で3人目。写真は、授賞式にのぞみ「緊張してます」と語る森教授（39）。

読売新聞社

▼水野さん、65日ぶり解放（8月2日）フィリピンで、共産ゲリラ「NPA」に誘拐されていた。民間援助団体の農業指導員（36）で、海外援助の困難さが問われた。

朝日新聞社

▲ノーベル賞作家・ソルジェニーツィンが復権（8月15日）1974年剥奪の市民権回復を、ゴルバチョフ大統領が決定。しかし完全な名誉回復を訴え、故国からの招待を断り4年後になって帰国した。

ロイター／サンテレフォト

▼大火傷のロシア人坊やを救え（8月28日）サハリンからの救命コールを受け、海上保安庁機が医師を乗せて飛んだ。写真は札幌医大に運ばれる3歳の坊や。

読売新聞社

▲佃の船渡御、28年ぶり復活（8月5日）40階建ての超高層マンションの前で、神輿が隅田川の川岸から船に降ろされ、巡行に出発した。江戸時代から続いた漁師たちの安全と、豊漁を祈る佃住吉神社の祭礼だった。

瀬戸正人

平成2年8月

1（水）●警察庁、一一月の大嘗祭に向け厳戒態勢開始。
2（木）●イラク軍がクウェート侵攻、湾岸戦争始まる。
●大阪の国立循環器病センター、胎児を母親の体外で手術し体内に戻す手術に成功。
●苫小牧市に一泊一〇〇万円のコテージ開業。
3（金）●運輸省、伊丹の大阪空港存続を決定。
4（土）●厚生省、平均寿命は男七五・九一歳、女八一・七七歳に延び、世界一を維持と発表。
5（日）●プロ野球大洋―中日戦で試合時間五時間五一分の新記録。試合終了は六日午前零時一一分。
6（月）●国連安保理、イラクへ全面的な経済制裁決議。
7（火）●レコード針製造のナガオカ、会社解散。
8（水）●インドネシアと中国、二三年ぶりに国交回復。
9（木）●横浜球場で初の高校生ロックバンド全国大会。
10（金）●高齢者世帯が初の一〇％突破と厚生省。
11（土）●阪大医学部、脳死者からの初の心臓移植承認。
12（日）●グリーンピースの四〇人、日本の流し網漁廃止求め、キャンベラの日本大使館前庭を占拠。
13（月）●KDD、中国政府と海底ケーブル敷設に合意。
14（火）●自治省調べで一世帯二・九八人と初の二人台。
15（水）●ソ連、ソルジェニーツィンらの市民権を回復。
16（木）●厚生省、エイズ治療薬の発症前使用を認可。
17（金）●千葉県の四四歳の主婦が一八人目の子を出産。
18（土）●食品監視団体が輸入レモンから有害農薬検出と発表（22日店頭からのレモン撤去相次ぐ）。
19（日）●ゴルフの尾崎将司がマルマン・オープンに優勝。史上初の八億円プレーヤーに。
20（月）●千葉県でクローン牛の国産第一号が誕生。
21（火）●森重文京大数解研教授、フィールズ賞受賞。
22（水）●イラク軍、クウェート在住日本人二四五人をホテルに軟禁（11月16日までに全員解放）。
23（木）●被爆の広島原爆病院、老朽化で取り壊し開始。
24（金）●日本初の生体肝移植を受けた杉本裕弥ちゃんが死亡。二八五日目（この年四人死亡）。
25（土）●本州―四国最後の架橋、多々羅大橋起工。
26（日）●北方領土墓参団の第一班が国後島に上陸。
27（月）●小沢一郎自民党幹事長「現行法制下でも自衛隊の中東派遣は可能」と発言。
28（火）●八年間の衛星放送用「ゆり3号a」打ち上げ。
29（水）●閣議、中東貢献策として一〇億ドルの支出決定（9月14日、米の圧力受け一〇億ドル追加）。
30（木）●日銀、インフレ抑止と米との金利差圧縮で公定歩合を六％に引き上げ。高金利時代に。
31（金）●国家公務員一種試験で女性一九九人合格。

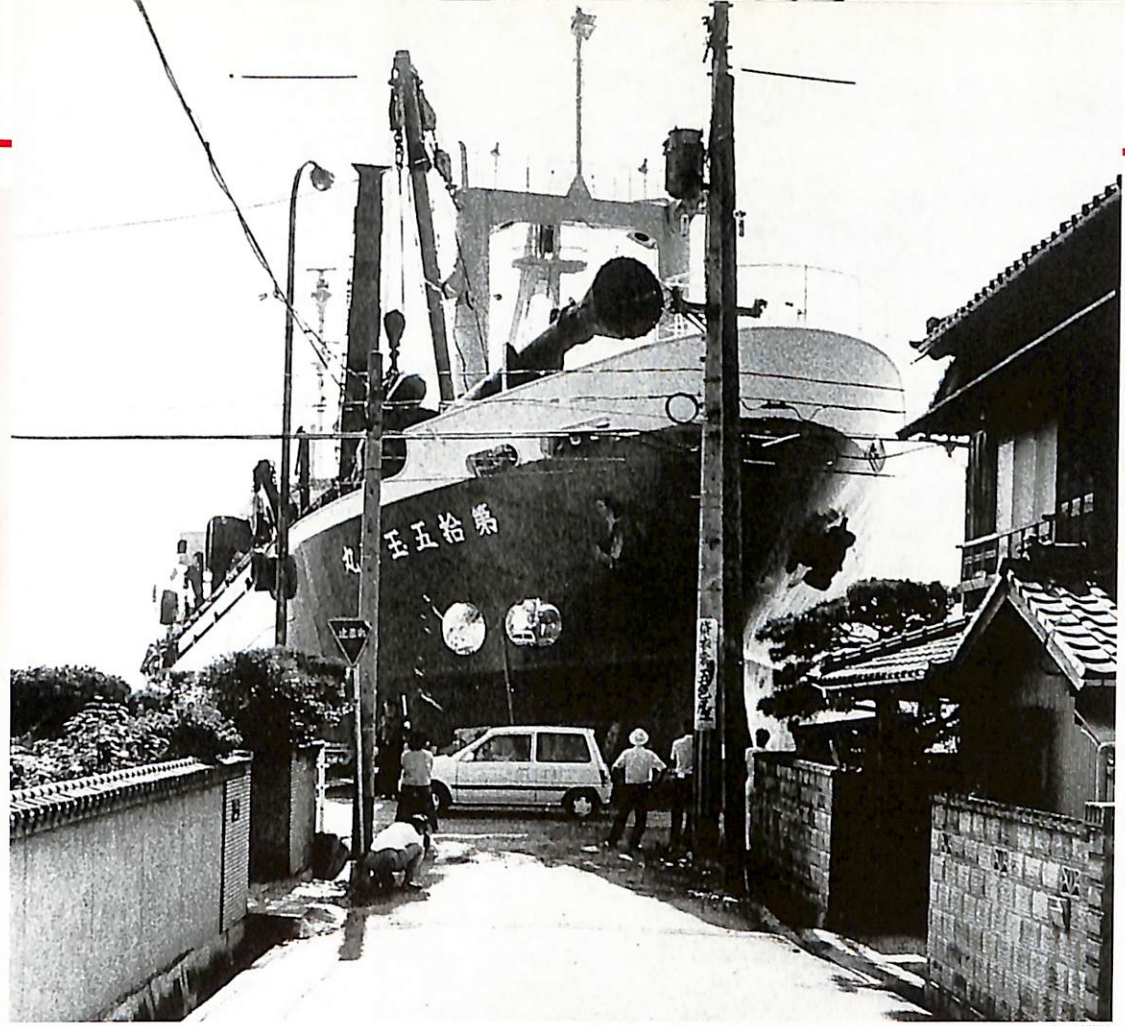
▶「第18富士山丸」船長ら7年ぶり帰国(10月11日)北朝鮮にスパイ容疑で抑留されていた二人が、自社訪朝団の折衝で「今後の言動」への配慮と引き替えに、「大赦」となった。

読売新聞社

◀磯田一郎住銀会長(77)、辞任(10月7日)支店長が株の仕手集団・光進代表の小谷光浩(53)に、巨額不正融資を仲介して逮捕され引責辞任。強引な経営が問題になっていた。

共同通信社

▼天才ホーキング教授の講演(9月6日)ケンブリッジ大の理論物理学者(48)が、東大で宇宙進化論を展開。筋肉が動かなくなる難病のため、車椅子につけた音声合成装置で語った。

共同通信社

朝日新聞社

▲砂利運搬船が道路に乗り上げ(9月3日)午後11時すぎ、広島県三原市で「第15玉吉丸」が国道の護岸を破り突進。怪我人はいなかった。船長の居眠りが原因。

▶社用ヘリ墜落(9月27日)乗員二人、乗客8人を乗せ宮崎市を発ったが、悪天候のため日向市で遭難、全員が死亡。旭化成延岡支社行きの社用定期便だった。

読売新聞社

◀アジア大会、北京で開幕(9月22日)36ヵ国、史上最多6000人が参加。写真は日本のメダル第1号、女子重量挙げ44キロ級銀の斎藤さと美(17)。

読売新聞社

平成2年9月

1(土)●アリコ・ジャパン、女性専用癌保険発売。
2(日)●子どもの権利を守る「国連児童条約」発効。
3(月)●理論物理学者のホーキング教授が初来日。
4(火)●大阪大病院、犯罪被害者の司法解剖時に脳死と判定し、腎臓を摘出して移植手術を実施。
5(水)●ソウルで朝鮮半島分断後初の南北首相会議。
●厚生省調べで初婚年齢は男二八・五歳、女二五・八歳で世界最年長。晩婚志向が顕著に。
6(木)●川崎重工、欧州のエアバス生産参加。日本初。
7(金)●都知事が性の商品化とミス東京の審査員辞退。
●米の代理母が日本人の子ども四人出産と判明。
●警察庁、死亡を脳死ではなく心臓停止と通達。
8(土)●巨人、二リーグ発足以来最短のリーグ優勝。
9(日)●女性だけの「庭師の会」結成。東京で初会合。
10(月)●大阪で連続六七日の真夏日。観測史上最長。
11(火)●NTT、世界初の広域帯通信網の開発に成功。
12(水)●北京動物園で朱鷺の人工繁殖に初めて成功。
13(木)●英で世界のブランド・イメージ調査。知名度一位はコカ・コーラ。高評価一位はソニー。
14(金)●大学志願者の理工系離れ進むと科学技術庁。
15(土)●歯の美容(審美歯科)市場がブームと新聞に。
16(日)●高校卒業予定者の就職試験を前に、求人二・七九倍で過去最高の売り手市場、と新聞に。
17(月)●長野地裁、痴呆症の妻との離婚認める判決。
18(火)●東京で開催のIOC総会、一九九六年五輪をアトランタに決定(19日プロ選手の参加承認)。
●ソ連の「潜在的脅威」削除の『防衛白書』発表。
19(水)●東京都議会、単位制高校の設置案を可決。
20(木)●台風一九号が本土縦断、死者・行方不明三九人。
21(金)●梶山静六法相が「アメリカに黒人が入って白人が追い出された」と発言(10月17日陳謝)。
22(土)●米・比交渉、クラーク基地返還で基本合意。
23(日)●一〇年間は原発建設中止とスイスの国民投票。
24(月)●自社両党の北朝鮮訪問団(団長・金丸信)、日本の植民地支配を謝罪(28日三党共同宣言)。
25(火)●料理学校の辻学園、モスクワに開校。
26(水)●武蔵野市、自治体初の違法駐車防止条例制定。
27(木)●日向市の山中で阪急航空のヘリコプター墜落、国内最悪の一〇人全員死亡。
28(金)●水俣病東京訴訟で、東京地裁が初の和解勧告。熊本県とチッソは受諾するが国は拒否。
29(土)●労働省、女性の職場進出増加で表面化する「セクハラ」の全国実態調査実施を決定。
30(日)●韓国とソ連が国交樹立、共同宣言発表。

読売新聞社

証言・あの日この日
井口時男(37)

6月4日(月) 〈永山則夫の名前がセンセーショナルに取りざたされている。だが、永山則夫が提起している問題は、文芸家協会の〝体質改善〟でもなければ〝殺人犯の小説〟という際物(きわもの)的興味でもない/〝新しさ〟を競う現代にあって/〝遅れた〟永山則夫の小説が提起している問題は大きい〉(井口時男「永山則夫の文学と言葉」)

「中上健次論」でデビューした新進気鋭の批評家・井口時男は、独特の嗅覚で殺人犯・永山則夫の小説に純粋な文学的関心を寄せていた。ところがこの年1月、永山が文芸家協会に入会を申請したことから、永山問題は文壇・論壇を揺るがす大事件へ発展。文芸家協会が殺人犯を理由に入会を拒否すると、それに抗議して筒井康隆、中上健次、柄谷行人の3人が脱会。続いて井口時男も脱会する。この一文は彼の脱会宣言である。 (山崎行太郎)

朝日新聞社

◀藤原定家750年忌法要(10月20日)京都・嵯峨の小倉山山麓の二尊院で、子孫の冷泉家25代当主、勝彦・貴美子夫妻らによっていとなまれた。写真は献歌披露式。男性は狩衣、女性はうちぎの王朝装束を身にまとった。

▲真藤恒NTT前会長に有罪判決(10月9日)東京地裁がリクルート未公開株譲渡を賄賂と認定、懲役2年、執行猶予3年を言い渡した。11被告中、第1号だった。写真は、地裁に入廷する真藤被告。

▼おそるべき野茂英雄(10月10日)対西武戦で、21の1試合2ケタ奪三振達成。阪神・江夏豊の20を破った。野茂(22)は「トルネード投法」をひっさげ近鉄に入団、MVP・新人王・沢村賞など8冠を総なめにした。

報知新聞

読売新聞社

▲徳島で観光バスに大岩直撃(10月8日)鳴門市の国道11号を走行中、道路脇の崖から直径1.2メートルの石などが落下。乗員乗客48人中3人が死亡、11人が重軽傷。金比羅参りの途次だった。

▶ロッテ・村田兆治、「マサカリ」おく(10月13日)「信念の速球が投げられなくなった」。対西武戦で10勝目をあげ、最後のマウンドを降りた。40歳。ひじの手術を克服しての勝利で、通算604試合215勝。

日刊スポーツ

平成2年10月

1(月)●パチンコの景品最高額、一万円へアップ。
●東証の株価が一時三年七ヵ月ぶり二万円台を割りこみ、前年末の四六%に暴落。
2(火)●東京の市民団体調べで、酒、タバコ自販機の七割が違法の道路はみ出しと判明。
3(水)●東独が西独に編入され、統一ドイツが誕生。
4(木)●三〇年間で一五の湖沼消滅と国土地理院。
5(金)●税金党が解散、野末陳平ら自民党入党。
6(土)●高脂血症、消化性潰瘍など小児成人病が増加、早急な対策必要と保険医団体連合会。
7(日)●北京のアジア大会閉幕。日本の金は三八。
8(月)●南鳥島が一年に四センチ移動したと観測で判明。
9(火)●ジョン・レノン生誕五〇年で国連本部から「イマジン」を世界一三〇ヵ国に同時放送。
10(水)●北朝鮮に拿捕された「第一八富士山丸」の紅粉勇船長ら二人が七年ぶり釈放(11日帰国)。
11(木)●東京都、窒素酸化物対策で交通量削減と決定。
●TBSドラマ「渡る世間は鬼ばかり」放映開始。
12(金)●石油元売り一〇社、石油製品再値上げを発表。
13(土)●国連のまとめで、アジアでは年間五〇〇万ヘクタールの森林が破壊されていることが判明。
14(日)●運輸省、パイロットの六三歳定年制を導入。
15(月)●ゴルバチョフ・ソ連大統領にノーベル平和賞。
●沖縄県議会、ホテルの海浜独占禁止条例可決。
16(火)●高原須美子、行革審初の女性委員に就任。
17(水)●都が来春から電気自動車の無償貸し出し決定。
18(木)●東京の葬儀費用は平均三五四万円、と新聞に。
19(金)●浦和市の幼稚園で集団下痢。園児二人のO-157型病原性大腸菌での死亡が判明。
20(土)●精巧な二セ一万円札が東京と横浜で発見。
21(日)●F1日本グランプリで鈴木亜久里三位入賞。
●小樽市で石原裕次郎記念館の起工式。
22(月)●熊本県警、オウム真理教総本部など家宅捜索。
23(火)●ユネスコ主催、海のシルクロード調査始まる。
24(水)●乗鞍岳で酸性霧発生と名大研究グループ。
25(木)●ビール大手四社、ビールの価格自由化を発表。
26(金)●文化勲章が日本舞踊の井上八千代ら五氏に。
●近鉄の野茂英雄、MVP・新人王など八冠。
27(土)●米下院、財政の大幅削減と大増税をともなう財政調整法案を可決。財政赤字解消のため。
28(日)●広島の三小学校が環境保護で風船飛ばし廃止。
29(月)●土地政策審議会、取引規制区域指定など答申。
30(火)●来日中の黒人指導者マンデラ、衆議院で演説。
31(水)●自主流通米の現物入札取引が東京でスタート。

毎日新聞社

▲**沖縄に12年ぶり革新県政(11月18日)**保革一騎打ちの知事選で、革新候補の大田昌秀(65)が、自民・民社推薦の現職・西銘順治(69)を破った。国連平和協力法案への賛否が、当落を左右した。

▼**長崎の雲仙岳、200年ぶり噴火(11月17日)**主峰・普賢岳(1359メートル)で噴煙を確認した。翌年5月からは頻繁に火砕流が発生、6月には火口から4キロも流れ下り、報道陣ら43人の命を奪った。

PPS

▲**サッチャー英首相、辞意(11月22日)**保守党党首選で、再選に必要な票数を得られなかったため。「鉄の女」がリードしてきた11年半におよぶ長期政権の幕引きだった。

長崎新聞社

▲**長崎県の五島列島でイルカ大量死(11月3日)**五島列島福江島の三井楽町の入り江に、583頭が迷いこみ大部分が死んだ(写真)。漁民が土中に埋めるなどしたが、英国の夕刊各紙は「世界の恥」などと報じ非難した。

▼**経団連会長に平岩外四(11月26日)**2期4年つとめた斎藤英四郎(79、左)が、若返りを理由に退任。日米摩擦解消など問題山積の中でのトップ交替となった。平岩(右)は76歳、東京電力会長。

共同通信社

読売新聞社

◀**京舞の井上八千代(85)に文化勲章(11月3日)**勲章伝達式が皇居で行われ、日本法制史の石井良助(82)、国文学の市古貞次(79)、書の金子鷗亭(84)、物理化学の長倉三郎(70)らとともに勲章と勲記を受けた。写真左は、曾孫の安寿子ちゃん。

朝日新聞社

平成2年11月

1(木)●川崎市、全国初のオンブズマン制度発足。
●厚生省調べで「私は健康」と思いながらも不安を感じている人が八割と判明。
2(金)●政府、天安門事件以来凍結の対中円借款再開。
3(土)●五島列島福江島の海浜にイルカ五八三頭が迷いこみ大半が死ぬ(5日英各紙激しく非難)。
●学生横綱にブラジル日系三世の池森ルイス剛。
4(日)●北京での日朝予備会談、月内再開のみ合意。
5(月)●小・中学校の登校拒否、最多の四万七二五八人。
6(火)●政府・自民党、国連平和協力法案成立を断念。
7(水)●衆参両院、東京一極集中排除で国会移転決議。
8(木)●フィリピン残留日本人孤児二人が国費帰国。
9(金)●全国で唯一上場企業ゼロの鳥取県で、日本セラミックが大阪証券取引所に上場。
10(土)●文部省、全国の中・高で初の校則調査と新聞に。
11(日)●中国などアジア全域で米離れ、と新聞に。
12(月)●天皇の即位の礼、一五八ヵ国の代表らが出席。
13(火)●協和・埼玉両銀行が翌年四月一日合併と発表。
14(水)●運輸省、トヨタ自動車開発のソーラーカーに初の普通ナンバー交付。公道走行が可能に。
15(木)●長野市立図書館、差別を助長するとの市の指示を受け『ちびくろサンボ』を廃棄。
16(金)●全国高体連、朝鮮高級学校の加盟を拒否。
17(土)●雲仙・普賢岳、約二〇〇年ぶりに噴火。
18(日)●沖縄県知事に革新の大田昌秀が当選。
19(月)●環境庁、動植物保護のため一〇国立公園へのオフロード車などの乗り入れを禁止。
20(火)●冠婚葬祭互助会、業者の倒産後も会員への契約履行のため保証機構を設立。
21(水)●全欧安保協力会議、三四ヵ国の首脳参加し「パリ憲章」採択。欧州対立・分断の終焉を宣言。
●任天堂「スーパー・ファミコン」発売。
22(木)●大嘗祭が皇居で行われる(~23日)。
●サッチャー英首相が辞意を表明(27日メージャー蔵相が新首相に就任)。
23(金)●郵政省、携帯電話を四年後に自由販売と決定。
24(土)●公立高に国際科など新学科創設流行と新聞に。
25(日)●米ソがサケ・マス漁業の九二年禁漁を提唱。
26(月)●松下電器産業、米映画会社MCAを買収。
27(火)●自民党、ノンバンクの土地融資規制に着手。
28(水)●山梨県都留市でリニアモーターカーの実験新線の起工式挙行。
29(木)●若い女性に「退屈恐怖症」広がる、と新聞に。
30(金)●日本衛星放送(JSB)が開局される。

共同通信社

坪井彰一郎

▲**松平健(37)と大地真央(34)、結婚(12月12日)**東京・新高輪プリンスホテルで、700人出席の盛大な披露宴を行い、月組同期生による思い出の「愛の宝石」合唱が、元宝塚スター・大地を泣かせた。

AFP/PANA通信社

◀**ポーランド大統領に連帯のワレサ(12月9日)**初の大統領選で、「強力で豊かな国の実現」を叫ぶ実業家のティミンスキに圧勝、底力を見せつけた。写真は宣誓するワレサ(42)。左はダスタ夫人。

◀**日本柔道に天才少女が出現(12月9日)**福岡国際柔道選手権48キロ級で大会最年少、15歳の田村亮子が優勝。準決勝を合わせ技一本、決勝も一本勝ち(写真)。小気味のよい攻撃柔道が目立った。

読売新聞社

▲**千葉県に大竜巻(12月11日)**茂原市を中心に、2~3キロにわたって吹き飛ばされた家屋、車などで帯状の瓦礫の山ができた。家屋損壊約1500戸、死者一人を出す戦後最大の強力な竜巻だった。

ロイター/サンテレフォト

◀**英仏海峡トンネル開通(12月1日)**全長49.4キロの作業用トンネルが完全開通、欧州大陸と英国が陸続きに。写真は10月、貫通を喜ぶ両国の作業員。本坑完成は1994年。

▶**稲村利幸元環境庁長官の巨額脱税発覚(12月19日)**仕手集団・光進の小谷光浩の情報で国際興業株などを売買、約28億円の所得を隠していた。27日東京地検は起訴。

読売新聞社

平成2年12月

1(土)●在日米海軍が日本人従業員の中東派遣を断念。
2(日)●TBSの秋山豊寛記者、ソ連宇宙船で日本人初の宇宙飛行に成功(10日帰還)。
3(月)●都内小・中学生の登校拒否が五〇〇〇人突破。
4(火)●NHKなどの「一〇〇万人の映画ファン投票」で、一位に「七人の侍」と「ローマの休日」。
5(水)●環境庁の水俣病責任者・山内豊徳局長が自殺。
6(木)●首都圏マンションの契約率が五九%に急落。
7(金)●東京高裁、東京スモン訴訟で患者敗訴の判決。
●警察庁、暴力団・山口組が東京進出と初の認定。
8(土)●患者一人当たり投薬率は前年比一割の大幅増。
9(日)●ポーランド初の大統領選でワレサ委員長当選。
10(月)●大阪の服飾専門学校がパリのエッフェル塔展望台でファッションショーを開く。
11(火)●千葉県茂原市で竜巻、約一五〇〇棟が損壊。
12(水)●英大手競売社サザビーズが東京進出を発表。
13(木)●最高裁、多摩川水害訴訟(昭和49年)で国に一定の管理責任を認め、逆転差し戻し判決。
14(金)●米航空宇宙局、木星探査機「ガリレオ」が撮影した月の裏側写真を公表。
15(土)●日本の科学技術研究費の総額が一一兆円を超え、GNP二・九一%で欧米並みと総務庁。
16(日)●栃木県が若者の建設業離れ対策で、ビルや橋に作業員名を刻んだ銘板取り付けを決める。
17(月)●四国霊場めぐりが三〇代以下に人気と新聞に。
18(火)●行方不明の坂本堤弁護士一家三人の情報を求める懸賞広告を、同僚弁護士らが新聞に掲載。
●ドイツ、財政難でアウトバーンを有料化。
19(水)●緒方貞子上智大教授、国連難民高等弁務官に選任される(日本人初の国連常設機関の長)。
20(木)●閣議、二二兆七五〇〇億円の次期防衛力決定。
21(金)●国勢調査速報で総人口は一億二三六一万人。
22(土)●閣議、次年度の経済成長予測三・八%を了承。
23(日)●有馬記念で武豊騎乗のオグリキャップ優勝。
●国民の九割が原発への不安表明と総理府調査。
24(月)●茨城県、筑波山麓に四〇キロの自転車道路建設。
25(火)●全国各行の経常利益は前年比四割減と全銀協。
26(水)●カラオケルームが一年間で三倍増と警察庁。
27(木)●稲村利幸衆院議員、一七億円脱税容疑で起訴。
28(金)●東証大納会、時価総額は大発会時の五九〇兆円から三六五兆円へ。バブルはじける。
29(土)●警察庁の汚職摘発は七一件でピーク時の半数。
30(日)●ダイエーが一月実施予定の週休三日制を延期。
31(月)●日本雑誌協会、性描写漫画に識別マーク導入。

流行語

最先端ギャルはおじさん風

「オヤジギャル」。中尊寺ゆっこの人気マンガから出た言葉で、わざとおじさん風の物言いや身ぶりをしてみせる若い女性のこと。ゴルフ場でたまたまそういう女性を見かけ、これがカッコいいうえに風格があったところから思いついたという。

「トリプル安」。株と債券、円相場の三つがそろって下がること。バブルがはじけたむくいとして、この年には新聞で「トリプル安」がしばしば話題になった。

「車庫飛ばし」。ニセの車庫証明で車を売ること。関係者の間では数年前から使われていたが、この年、車庫飛ばしにのって車を買ったものの罰金が、二〇万円に引き上げられてから話題になった。

「個食族」。中年以上の独身男性や単身赴任者のこと。もともと塾がよいや両親が共稼ぎで、一人で食事をする子どもたちをさす言葉として登場したが、この年には内容が変わって、一人暮らしの老人や単身赴任の父親などをさすようになった。

◀この年中央競馬の女性入場者数は、100万人を超えた。写真はひいきの騎手に手を振る女の子たち。

共同通信社

ファッション

八〇年代、女性の胸が急速に豊かになった

大手下着メーカーが、デパートや専門店での販売実績をもとに、この一〇年間のバストのカップサイズの変化をまとめた。それによると、

一九八〇年——
Aカップ＝五八・六％
Bカップ＝二五・二％
Cカップ＝一一・六％
Dカップ＝四・六％

一九九〇年——
Aカップ＝三二・三％
Bカップ＝三〇・五％
Cカップ＝二一・四％
Dカップ＝一〇・〇％
Eカップ＝五・六％
Fカップ＝〇・二％

これによっても、女性の胸がこ一〇年で、急速に豊かになったことがわかる。この変化にともなって、デパートの下着売り場には〝ブラジャーを沢山ぶら下げた〟ブラバー〟や、ブラジャーの相談に応じる〝ブラフィッター〟らも登場するようになった。

（「サンケイ新聞」四月三日）

文化

手帳の使い方調査で判明した東西の相違

シャープが東京・大阪のサラリーマンとOL五〇〇人を対象に、手帳の使い方を調べたところ、意外な違いがわかった。

まず東西で違うのは選び方で、東京はカッコよさが第一条件で三四％。大阪は見てくれよりもタダでもらえる会社の手帳を選ぶ人が四三％。使用目的では、男性はビジネス用が五〇％、女性はプライベート用が六〇％と東西で差はないが、女性でお茶代などの金銭をかならず記入する人が、大阪二八％で東京一五％。大阪のしまり屋ぶりは今も健在であることを数字が示した。

（「秋田さきがけ」一二月一五日）

CM100年

▲ヒット・ミュージカル「コーラスライン」のテーマ曲をバックに、緒形拳がビールを飲むシリーズ。

◀「漫画アクション」連載の「クレヨンしんちゃん」（臼井儀人作）が大ヒット。アニメ化されて茶の間の人気者に。

©臼井儀人　双葉社

でもなんで女にはちんちんないの？

来た…

親は時としてこうした難問に直面する

レジャー

その名も「1839峰」数字だけの山の名登場

国土地理院が発行する地図に、「1839峰」という名前が登場した。山の標高が山の名前になるのは初めてで、読み方も「せんはっぴゃくさんじゅうきゅうほう」。この山は北海道日高山系の一角にあり、山の愛好家の間では「いっぱさんきゅうほう」の愛称で親しまれてきた。同院も名称を決めるにあたって、この愛称に近い呼び方を採用したもの。この山、正確には一八四二㍍あるが、同院はあくまで愛称優先にしたという。

（「朝日新聞」六月一六日）

はやり歌

おどるポンポコリン　作詞　さくらももこ　作曲　織田哲郎

なんでもかんでも　みんな
おどりを　おどっているよ
おなべの中から　ボワッと
インチキおじさん　登場
いつだって　わすれない
エジソンは　えらい人
そんなの　常識　タッタタラリラ
ピーヒャラ　ピーヒャラ
パッパパラパ
ピーヒャラ　ピーヒャラ
パッパパラパ
ピーヒャラ　ピーヒャラ
おへそがちらり
タッタタラリラ
ピーヒャラ　ピーヒャラ
パッパパラパ
ピーヒャラ　ピーヒャラ
おどるポンポコリン
ピーヒャラ　ピ　お腹がへったよ

▶テレビアニメ「ちびまる子ちゃん」のテーマソング。歌はB・Bクイーンズ。平成二年度の日本レコード大賞受賞。

BMGジャパン提供

さよなら人類　作詞　作曲　柳原幼一郎

二酸化炭素をはきだして
あの子が呼吸をしているよ
曇天模様の空の下
つぼみのままでゆれながら
野良犬はぼくの骨くわえ
野生の力をためしてる
路地裏に月がおっこちて
犬の目玉は四角だよ

今日　人類がはじめて
木星についたよ
ピテカントロプスになる日も
近づいたんだよ

アラビヤの笛の音響く
街のはずれの夢のあと
翼をなくしたペガサスが
夜空にはしごをかけている
武器をかついだ兵隊さん
南にいこうとしてるけど
サーベルの音はチャラチャラと
街の空気を汚してる

◀アマチュアバンドのコンテスト番組「イカ天」で、初代チャンピオンになった「たま」が歌ってヒットした。

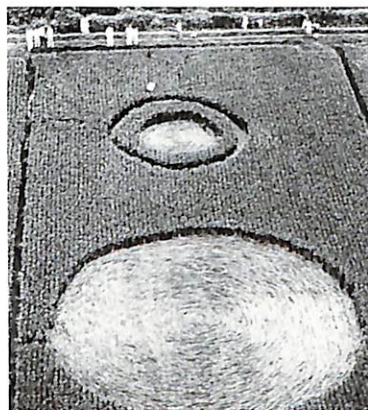
日本クラウン販売／松原美由樹提供

三面記事

バブル崩壊もなんのその

金の冷蔵庫に金のゴルフパター、純金製胸像あるいは金箔入りのあんぱんやふりかけなど、今、〝金ピカ商品〟が売れに売れている。金ブームをあてこんで黄金コーナーを設けたのは東京・三越本店。金張り冷蔵庫（八八万円）、金のパター（一三〇万円）などをそろえ、いずれも売れ行き好調。中には、二一点で四〇〇〇万円という金のお皿セットもある。

田中貴金属では実物そっくりの純金製胸像を製作・販売しており、値段は約八八八万円から二三〇〇万円。また三菱金属の純金カードは自分の名前を貼れば名刺として使えるもので、昨年一年間で五万枚売れた。一方、金ブームは食べ物にもおよび、金箔入りのあんぱんやふりかけ、金箔を浮かべて飲むお茶などが大好評。この流行、三越によると「リッチ・アンド・ゴージャスさを求める表れ」で、金はそれが最もわかりやすいとして人気を集めたという。

（「徳島新聞」一月八日）

▲9月17日、福岡県篠栗町の水田に〝ミステリーサークル〟が出現。

読売新聞社

社会

花博の目玉のひとつ男性コンパニオン

大阪市で開かれている「国際花と緑の博覧会」で、男性コンパニオンが女性入場者の人気を集めている。男性コンパニオンをおいているのは、中世の絵画を展示した「ダイコク電機館」で、メンバーは一八〜二七歳（平均二二歳）までの九人。平均身長一七八㌢に甘いマスク、しかもバチカンの衛兵をイメージしたコスチュームにベレー帽というスタイルが、女性の好みにぴったり合ったもので、女子高生のファンクラブができたコンパニオンや、中年女性にすごい人気の男の子もいる。同館によると「現代は、女性が堂々と男性を〝吟味〟する時代」だと思って男性を起用したが、ここまで人気になるとは予想外だったという。

（「日本経済新聞」五月二九日）

犯罪

はずれた受話器が強盗をキャッチ

東京・江東区で電話でのおしゃべりが幸いし、女子大生（二二）が命を救われた。女子大生が友人と電話中、「宅配便です」という声がした。もっとおしゃべりがしたかった彼女は受話器をそのままにドアを開けたところ、男（四一）が包丁を首に突きつけ「金を出せ」。「キャー！」という悲鳴に気づいた電話の友人が、すぐに一一〇番したもので、深川署員が急行した時、男はまだ女性を脅迫している最中だった。

（「東京新聞」五月一七日）

◀話題を呼んだ人面魚。山形県鶴岡市の寺の池で発見されたのをきっかけに、各地で撮影された。

共同通信社

▶御即位記念の一〇万円金貨は、直径が三三ミリ、重さは三〇グラム。

読売新聞社

この年の初もの

東京で大流行！花の自動販売機

●**電子手帳の「過去帳」**　お寺の信徒の家ごとに故人の命日などを入力できるもので、奈良のOA機器会社が販売。

●**人工栽培のツバヒラタケ**　神秘の味と言われ、日本で過去に一例しか発見例がない幻のキノコ。三年前、二つ目を発見した群馬県のキノコ専門家が、これをもとに人工栽培に成功。

●**ロシア語ワープロ**　金沢市の中小メーカーが世界で初めて開発。

世界の動き

戦後四五年間の分断に終止符！国民総生産は英仏の約二倍の〝超大国〟復活

東西ドイツ統一の「理想と現実」

一九九〇年一〇月三日の東西統一によって、第二次世界大戦敗北以来、四五年ぶりに主権を回復したドイツ。誰もが祝福した分断国家の統一も、それが人口七八五〇万人を擁する「経済的巨人」の出現を意味するものだっただけに、水面下ではかつての「強すぎるドイツ」への懸念を呼び起こした。歓迎、戸惑い、警戒が交錯した〝世紀の実験〟の行方は――。

統一推進派が選挙で圧勝 東西の話し合いが本格化

「アインハイト（統一）！」の大合唱に、爆竹やラッパの音が入りまじる。ベルリンの旧帝国議会議事堂前はこの日、シャンパンを片手にした市民の異様な熱気に包まれていた。国歌「ドイツの歌」が奏でられ、花火が一斉に打ち上げられたのは、一九九〇年一〇月三日午前零時。戦後四五年間の分断に終止符を打ち、ドイツが悲願の統一をなしとげた瞬間だった。

同日午前一一時から行われた式典では、初代大統領になったワイツゼッカー（七〇）が、「ドイツ国民は統合された欧州で、世界の平和に貢献したい」と〝新生ドイツ〟誕生を宣言。超大型の国旗が、掲揚されると、コール初代首相（六〇）は感無量といった様子で目をうるませた。

諸外国からは、ゴルバチョフ・ソ連大統領やミッテラン仏大統領、ブッシュ米国大統領、日本の天皇といった代表者が次々と祝福のメッセージを打電した。

一方、〝新生ドイツ〟の実態は、西側が消滅する東側を丸ごと呑みこむ〝吸収合併〟だっただけに、東側では、反対派がデパートや銀行に放火する騒ぎが発生し、在東独日本大使館の看板を〝記念〟に盗むちゃっかりものもいたという。

冷戦の崩壊を決定づけたドイツ統一の動きが加速したのは、九〇年三月に実施された東ドイツ人民議会選挙（民主化された東独初の国会議員選挙）によってだった。ここで統一推進派が圧勝したのを受けて東西交渉が本格化し、統一が三段構えで進行したのである。第一段階を右の選挙とすると、第二段階が九〇年七月に行われた通貨統合、そして、一〇月三日の政治的統合が最終段階となったのだ。

こうして人口七八五〇万人、国民総生産がフランスの一・八倍、英国の二・一倍にあたる一兆八〇〇〇億ドルと、世界を揺るがす〝超大国〟が誕生したのである。

それだけに、ドイツに舐めさせられた過去の辛酸を忘れられないイスラエルが、「ドイツが世界一の国になるなら、またユダヤ人を殺害するだろう」と統一に難色を示したのをはじめ、表向きは賛成の立場をとったフランスでさえ、ドイツの国連安保理常任理事国入りには反対するなど、周辺諸国の警戒心を強めた。

対照的に、これをビジネスチャンスと位置づけた日本からは、斎藤英四郎経団連会長を団長とする「東欧経済使節団」が、具体的な投資案件を期待して統一ドイツをはじめ東欧五ヵ国を訪問した。

「壁を元に戻して！」国民に広がる幻滅感

ところが、一連のセレモニーが終わってみると、理想と現実の落差に多くのドイツ人が愕然とすることになる。「ソ連・東欧諸国の優等生」とされた旧東ドイツ側の実態は、あまりにもろいものだった。

まさにドイツ統一のその日、社員五六〇〇人を抱える欧州最大のカメラメーカー、ペンタコン社は、突然閉鎖を発表。通貨統合以降、生産コストが市場価格を五倍も上回ることが判明し、「市場経済下では立ちいかない」がその理由だった。ペンタコン社のように生産性を無視してきた東側の企業が資本主義の競争原理にさらされた結果、東側では三社に一社の割合で倒産。統一から三年たっても、東側住民の失業率は西側の二倍以上にあたる一四パーセント台という事態を迎えた。

失職した東側住民の生活に追い打ちを

▲壁崩壊から11ヵ月後の10月3日午前零時、新生ドイツ誕生。ブランデンブルグ門の前に集まった群衆から大歓声が沸き上がる。 共同通信社

◀国旗を振ってドイツ統一を喜ぶ若者たち。盛大に花火が打ち上げられ、お祭り騒ぎは終夜続いた。

朝日新聞社

▶旧東ベルリン工業地帯に忍び寄る失業の影。三六九万台製造された東独車・トラバントも生産中止に。

共同通信社

外から見たNIPPON

半世紀以上にわたる沈黙を破った張学良の「証言」

――佐伯　修

ロイター・サン　共同通信社

▲名誉回復後、ハワイに移住。

「私は、一生を日本によって台なしにされました。私は日本に父親を殺され、家庭を破壊され、財産も奪われたのです。このうえなく不合理なことです」

それまで、穏やかな口調で、波乱に満ちた一生を振り返ってきた老人の声が、にわかに熱を帯びた。数えで九〇歳の老人のものとは思えない、怒気を含んだ鋭い口調は、彼の体内に流れる、猛々しい緑林（馬賊）の血を、いやおうなく思い出させた。

彼、張学良（一九〇一～）は、この年、半世紀以上にわたる幽閉生活による沈黙を破って、台北でNHKテレビのインタビューに応じた（引用はNHK取材班・臼井勝美『張学良の昭和史最後の証言』より）。

右の発言中の「父親」とは、緑林から身を起こして、中国東北部（満州）の実質的な支配者となり、日本の関東軍の謀略によって暗殺された軍閥、張作霖のことである。

かつて、張学良は二度、日本をだし抜いている。一度目は、一九二八年、父親が暗殺された時、彼は父の死をしばらく隠し、暗殺を張父子に敵対する南京の国民政府の仕業と見せかけて、軍事介入しようとした関東軍の出鼻をくじき、なおかつ国民政府に合流している。二度目は、三六年、「西安事件」を起こし、「上司」である蔣介石に、国民党と共産党の和解による抗日路線を強引にとらせたこと。その責任をとって、以後は国民政府による長い幽閉に甘んじた。

張にはモダン趣味のプレイボーイの一面があったのは事実だが、日本側はそんな彼を軟弱なお坊ちゃんと見くびって、その大胆で行動的な一面を見落としていた。

とは言うものの、彼は日本や日本人をまったく嫌っていたわけではない。インタビューの中で、彼が好意的に語るのは、本庄繁（軍人）、佐分利貞男（外交官）らで、乃木大将は今も尊敬していると言う。同年だった昭和天皇には一種の親近感を持っていたようだ。一方、土肥原賢二（軍人）らに対する嫌い方は激しく、好悪がはっきりと分かれている。こういったところに、彼の性格の意外な武骨さがかいま見える。

さて、冒頭の発言に続けて、彼は「日本の若者にぜひとも言いたいこと」として、「恕」の精神、つまり他者を思いやる心の重要性を説く。「それは相手の置かれた状況や、相手の動機、辛さなどを考え、なぜそのように行動したかを想像し理解することです」と。

なお、東北部との因縁浅からぬ張父子だが、父の作霖は、実は山東省の出稼ぎ地帯から東北へ流れた極貧農だったという。

かけたのが、物価の上昇だ。九一年になると、電気やガスなどの公共料金は三倍に跳ね上がり、家賃も五～七倍に上昇。こうした〝洗礼〟を受けた結果、九〇年末から九一年にかけて、東側で「提督ゲーム」と呼ばれるネズミ講が流行。手っとり早く西側の生活を手に入れたい人々が、悪徳業者にだまされる事件も起きた。

最も深刻なのは、統一の後遺症がドイツ人の心にも影を落としたことだ。倒産や難民流入で失業した東側の青年たちは、外国人排斥運動にはけ口を求め（九二年に発生した極右団体による凶悪事件は約二三〇〇件）、彼らの両親も、九二年に公開された旧秘密警察の市民監視記録によって、「妻が密告者だった」などの真実に直面。人間不信におちいっていった。

まさに、〝負の遺産〟にあえぐ東側の再建に、政府は毎年約一五〇〇億マルクを投入したが、これが重圧となりドイツ経済は九三年ついにマイナス二パーセント成長に転落。西側も、「いつまで連帯税（統一協力税、所得税の約七・五パーセント）を払うのか」と不満を鬱積させていく。

こうして、九四年にベルリンで開催された「ドイツの歩み」写真展では、東西住民の幻滅感を反映して、ビジターズブックに「壁を元に戻して」と書く市民が続出することになる。

東西間の歪みについて、「南ドイツ新聞」のゲプハルド・ヒールシャー記者は、「統一」から八年後の今では、西側の集中投資によって、東側の生活はかなり向上しました。賃金水準も西側の八〇パーセントまできて、モノや金では大差がなくなってきている。ただし、精神の亀裂は別です。西側住民と（敗北感を抱えた）東側住民の心の隔絶を埋めるのに……、十年かかるかもしれません」と語る。

ただし、「九九年にはこうした状況が一気に好転する可能性」（ヒールシャー氏）もある。ボンからベルリンへの首都機能の完全移転、欧州単一通貨「ユーロ」の導入などの大事業が控えているからだ。

「どちらも、ドイツの〝戦後〟の終結を意味する重要な動きです。特に首都移転は、うまくいけば東西住民の心をひとつにするチャンス。いずれにせよドイツは、欧州統合という次の実験で、国家の命運を決める本当の正念場を迎えることになるでしょうね」（ヒールシャー氏）

▶前年一一月九日、東ドイツ政府は、市民の国外旅行を全面自由化する政令を決定。「ベルリンの壁」は実質的に消滅することになった。

読売新聞社

R・ワイツゼッカー（1920～）
政治家。八一年西ベルリン市長就任。八四年西ドイツ大統領、九〇年統一ドイツ大統領。九四年退任。

往きて還らぬ

共同通信社

▲9月25日　高橋展子（74）
日本初の女性大使。昭和55年デンマークに赴任。世界女性会議の日本代表もつとめるなど、女性の地位向上に貢献。

▲5月27日　高峰三枝子（71）
女優。戦前・戦後を代表する美人女優の一人。〝歌う映画スター〟第1号で、昭和15年「湖畔の宿」が大ヒット。

共同通信社

▲1月20日　東久邇稔彦（102）
元皇族、軍人。明治39年東久邇宮家創設。昭和14年陸軍大将、20年8月初の皇族内閣を組織するが、2ヵ月後総辞職。

▲9月25日　奥村土牛（101）
画家。日本画壇の最長老。昭和37年文化勲章受章。代表作にバレリーナの谷桃子を描いた「踊り子」など。

毎日新聞社

▲6月26日　萩野昇（74）
富山県婦中町萩野病院院長。昭和36年、イタイイタイ病の原因がカドミウムであることを、独力でつきとめた。

▲5月3日　池波正太郎（67）
小説家。昭和35年『錯乱』で直木賞受賞。『鬼平犯科帳』『仕掛人・藤枝梅安』で人気作家に。食通としても知られた。

▲1月10日　春日野清隆（64）
元横綱栃錦。若乃花と〝栃若時代〟を築く。引退後は日本相撲協会理事長をつとめ、新国技館を完成させた。

▲10月12日　永井龍男（86）
小説家。短編小説の名手と言われ、作品に『青梅雨』『石版東京図絵』など。昭和56年文化勲章受章。

◀9月1日　E・O・ライシャワー（79）
元駐日米大使。安保問題で反米感情が高まった昭和36年赴任、日米の関係修復に尽力。写真はハル夫人と。

▲10月16日　アート・ブレーキー（71）
米ジャズ界の巨人で、名ドラム奏者。1955年「ジャズ・メッセンジャーズ」結成、モダンジャズブームを巻き起こす。

土門拳記念館提供

▼9月15日　土門拳（80）
写真家。戦後の日本写真界のリーダー。独自のリアリズム写真を確立、代表作に『ヒロシマ』『古寺巡礼』など。

▲5月21日　藤山寛美（60）
関西喜劇を代表する俳優。阿呆役で笑いを振りまき、テレビドラマ「親バカ子バカ」が爆発的な人気を呼んだ。

▲1月25日　エバ・ガードナー（68）
妖艶さと強烈な個性で人気を集めた、ハリウッドのグラマー女優。代表作に「裸足の伯爵夫人」（1954年）など。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第62号 5月12日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1921［大正10年］

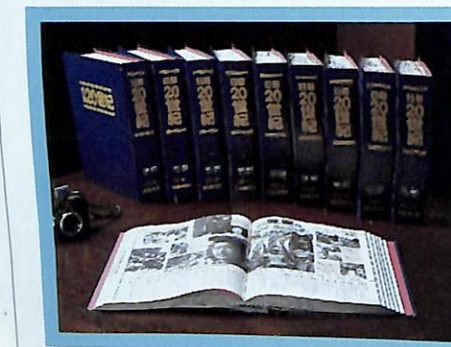
●特集
軍艦「香取」で六ヵ月にわたる大旅行 皇太子、二〇歳の「欧州巡遊」／大正デモクラシーの「暗部」 安田善次郎と原敬首相、暗殺！／「不倫」に女性から圧倒的共感！ 美貌の歌人、柳原白蓮の“恋と出奔”／“ドタバタ”を超えた大傑作 チャップリンの「キッド」、大当たり！

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…第一次大本教事件起こる（2月12日）／レーニン、新経済政策「ネップ」発表（3月8日）／盲目のロシア詩人・エロシェンコ、国外退去（5月29日）／神戸で労働者三万人、空前の大デモ（7月10日）／槇有恒、アイガー東山稜に初登頂（9月10日）／皇太子裕仁、摂政就任（11月25日）

●人物クローズアップ
童謡詩人・野口雨情、「赤い靴」発表

●決定的瞬間
ロシア・クロンシュタット水兵の叛乱！

●美の出会い
初のアマチュア向けカメラ雑誌創刊！

●女たちの肖像…栗島すみ子、銀幕デビュー／勝者・敗者…熊谷、清水がデ杯決勝へ！／証言・あの日この日…内村鑑三、木佐木勝／「現場」を歩く…丹那トンネルと“水”の功罪／20世紀博物館…新横浜ラーメン博物館（神奈川）／外から見たNIPPON…留学生・郁達夫の“孤独”

●ベストセラー…小川未明『赤い蝋燭と人魚』／スターと名場面…尾上松之助「豪傑児雷也」／モノ語り'21…「ふたまたソケット」「二重コイル電球」

■既刊好評発売中（既刊61冊！ 1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九三〇年代：第43号1931［昭和6年］ 第44号1932［昭和7年］ 第45号1933［昭和8年］ 第46号1934［昭和9年］ 第47号1935［昭和10年］ 第48号1936［昭和11年］ 第49号1937［昭和12年］ 第50号1938［昭和13年］ 第51号1939［昭和14年］ 第52号1940［昭和15年］

一九四〇年代：第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］ 第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第3号1945［昭和20年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］

一九五〇年代：第36号1951［昭和26年］ 第37号1952［昭和27年］ 第38号1953［昭和28年］ 第39号1954［昭和29年］ 第40号1955［昭和30年］ 第41号1956［昭和31年］ 第42号1957［昭和32年］ 第6号1958［昭和33年］ 創刊号1959［昭和34年］ 第11号1960［昭和35年］

一九六〇年代：第12号1961［昭和36年］ 第13号1962［昭和37年］ 第5号1963［昭和38年］ 第2号1964［昭和39年］ 第14号1965［昭和40年］ 第15号1966［昭和41年］ 第16号1967［昭和42年］ 第17号1968［昭和43年］ 第18号1969［昭和44年］ 第4号1970［昭和45年］

一九八〇年代：第56号1984［昭和59年］ 第57号1985［昭和60年］ 第58号1986［昭和61年］ 第59号1987［昭和62年］ 最新刊 第60号1988［昭和63年］

■今後の刊行予定

▶第63号1922［大正11年］5月19日発売
ツタンカーメンの墓発見！●ワシントン軍縮会議の衝撃●児童雑誌ブーム●シベリア「極東共和国」

▶第64号1924［大正13年］5月26日発売
皇太子、ご成婚●宮沢賢治『春と修羅』でデビュー●「排日移民法」成立！●孫文、最晩年の輝き！

▶第65号1925［大正14年］6月2日発売
ラジオ放送、始まる！●「治安維持法」制定●「東京六大学野球リーグ」戦スタート●「ライカ」誕生

▶第66号1926［昭和元年］6月9日発売
大正天皇崩御と“元号誤報”騒動●「同潤会アパート」出現●「福岡連隊事件」●R・ヴァレンチノ急逝！

▶第67号1927［昭和2年］6月16日発売
蔵相のひとことで“失言恐慌！”●芥川龍之介、自殺●「北京原人」、出土！●「英雄」リンドバーグ

▶第68号1928［昭和3年］6月23日発売
日本、五輪初の金メダル！●「満州某重大事件」●昭和の「即位大礼」●「ミッキーマウス」デビュー

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円（税別）です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

ミニ事典 1990年のキーワード

脳死臨調

首相の諮問機関、「臨時脳死及び臓器移植調査会」の略。二月一日、その設置法が施行され、昭和五七年頃から社会問題化していた脳死の判定、脳死を死と認めるかなどについて政府の方針を打ち出すため、三月二八日から審議を開始した。会長は永井道雄元文相。平成四年、脳死を社会的・法的に人の死とし、臓器移植を容認する答申を出した。平成九年六月、臓器移植に限り脳死を認める臓器移植法が成立した。

共同通信社

▲3月28日、脳死臨調の第1回会合で挨拶する海部首相。委員は15人、非公開だった。

ファジー

「ひどく」「かなり」「わずかに」などの言い方で表現される、計量化しにくい量をコンピュータで扱えるようにするための理論。二月に松下電器産業がこの理論を応用し、汚れの程度を検出して所要時間を決める洗濯機を発表、この年次々に発売されたファジー家電の火つけ役となった。また、「あいまいさ」を「ファジー」と呼んで流行語になった。

企業メセナ

民間企業の組織的な文化・芸術・科学活動への援助。「メセナ」はローマ法王やメディチ家がダ・ヴィンチら芸術家にした庇護の意味。二月に日本の財界人一四人が中心になって、社団法人企業メセナ協議会を設立。理事長・福原義春（資生堂社長）。一口二五万円で会員企業を募った。平成一〇年の会員企業は一七二社。営利を度外視した慈善事業が、日本に根づくかどうかが問われている。

トトロのふるさと基金

東京・埼玉に広がる狭山丘陵を、乱開発から保護する募金活動。各地でさかんになったナショナル・トラスト運動のひとつ。四月一二日発足。狭山丘陵が、宮崎駿原作・監督のアニメ映画「となりのトトロ」の舞台だったところから名づけられた。平成四年、基金で丘陵の一部を買い取り、オオタカ、ミミズクなどの鳥類や自然の保護を進めている。

マネー・ロンダリング

麻薬取引など犯罪に関係して得た利益を、金融取引を利用して、出所をわからなくすること。ロンダリングとは洗浄のこと。一九八九年、アルシュ・サミットで対策強化が合意され、日本も「資金洗浄に関する金融活動作業グループ」を結成。六月二八日、大蔵省は金融機関宛に取引における本人確認の徹底、記録の五年間保存、資金洗浄対策の開発などを行うよう通達した。

生涯学習振興法

国民の生涯にわたる学習を振興し、保障・支援するための法律。この年七月一日施行。情報化・高齢化社会を迎える中で、生涯学習への期待が高まり、さらに、臨時教育審議会が、教育改革の柱として答申したのを受け制定された。事業主体は都道府県で、生涯学習・教育センターの整備・拡充、指導者の育成、各種講座の開設などを行うことになった。

代理母

子どもがほしいが得られない不妊夫婦に代わって母になること。体外受精した受精卵を着床させるか、人工授精する。九月七日、ロサンゼルスで代理母斡旋をしている弁護士が、日本人の赤ちゃんも四人誕生していると発表、衝撃を与えた。代理母への支払いは約一四〇万円。女性の身体の商品化、生の操作など、さまざまな議論を呼んだ。これは現在も行われていると言われるが、日本産科婦人科学会は代理母を認めていない。

国連平和協力法案

国連軍への自衛隊派遣などを内容とする法案。湾岸危機の中で、ブッシュ米大統領が掃海艇部隊の派遣を要請してきたのを受け、政府・自民党が一〇月一二日に国会に上程。野党の猛反対ばかりか、衆院特別委員会で工藤内閣法制局長官が、現行憲法下では自衛隊の国連軍への参加はできないと答弁。結局、第一一九回国会で廃案になったが、あらためて現行の憲法体制が問われた。

共同通信社

▲国連平和協力法案に対し10月27日、呉市でも市民グループが反対運動を行った。

オンブズマン

行政に対する市民の苦情や救済の申し立てを、市民の立場に立って処理し、その実行を監視する専門職。行政監査専門員。一一月一日、川崎市が定数三人、任期三年、一期に限り再任可能として、全国に先駆けて実施した。オンブズマンは調査権を持ち、苦情の原因が行政の制度や運営の欠陥と判断した時は、首長に是正勧告や意見表明を行うことができる。

パリ憲章

一一月一九日から三日間、パリで開催された全欧安保協力会議（CSCE）で、三四ヵ国が採択した宣言。分断と対立から、統一した新しい欧州誕生がうたわれた。CSCEに先立って、一九日、パリで北大西洋条約機構（NATO）とワルシャワ条約機構（WTO）加盟の二二ヵ国が欧州通常戦力条約に調印した。保有戦力の上限を定め、現行戦力よりNATO＝二割、WTO＝六割の削減をはかる歴史的な軍縮となった。

ロイター／サンテレフォト

▲11月19日、全欧安保協力会議がエリゼ宮で開かれ、各国首脳がパリ憲章に調印した。

ダイヤルQ²

電話で各種の情報を提供する業者の情報料金を、NTTが電話料金と一緒に回収するサービス。業者はNTTから電話回線を借り、情報を流すだけでよい。一一月にNTTがサービス地域を全都道府県庁所在地に拡大した。新しい情報源というより、収益性の高さが注目され、回線申し込みは三〇〇倍になったが、情報の半数を「声のポルノ」が占めたため、大きな社会問題となった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1990

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター／山口至剛
表紙デザイン／山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕一
本文レイアウト／デザインオフィス八起き
編集協力／(有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊池美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
荒木経惟 臼井儀人 奥村健太郎 島内英佑 瀬戸正人 但馬一憲
坪井彰一郎 ジョージ・フェラーリ 松原美由樹 山岡正剛
朝日新聞社 AFP AP オリオン・プレス 共同通信社 サン
テレフォト TBS 長崎新聞社 日刊スポーツ PANA通信社
PPS 双葉社 報知新聞社 毎日新聞社 ユニフォト・プレス
読売新聞社 ロイター WWP
松竹 BMGジャパン 藤子スタジオ
土門拳記念館

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1990
●平成の即位の礼挙行! 5月29日号
第2巻第18号 通巻61号
編集人 近藤達士 発行所 株式会社講談社
郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円

雑誌 23713-5/19 T1123713050564
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社